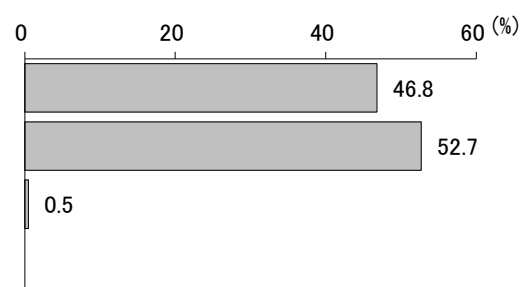


第2章 調査結果の詳細

1. あなた自身のことについて

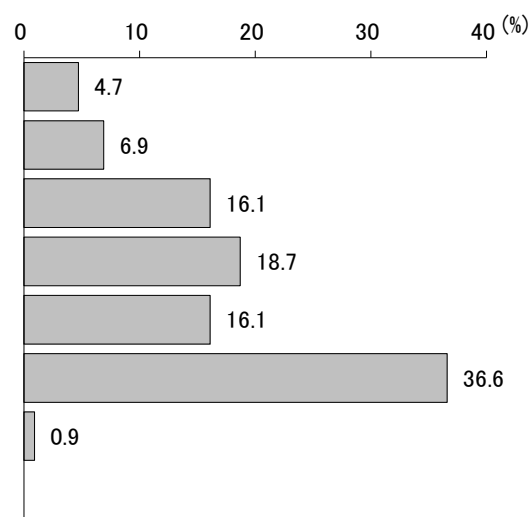
(1) 性別

	基数	構成比
男	667	46.8%
女	752	52.7%
無回答	7	0.5%
全 体	1,426	100.0%



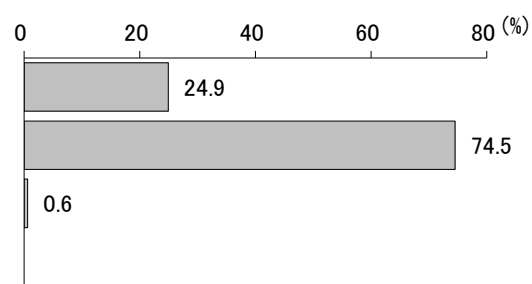
(2) 年齢

	基数	構成比
10歳代	67	4.7%
20歳代	98	6.9%
30歳代	230	16.1%
40歳代	266	18.7%
50歳代	230	16.1%
60歳以上	522	36.6%
無回答	13	0.9%
全 体	1,426	100.0%



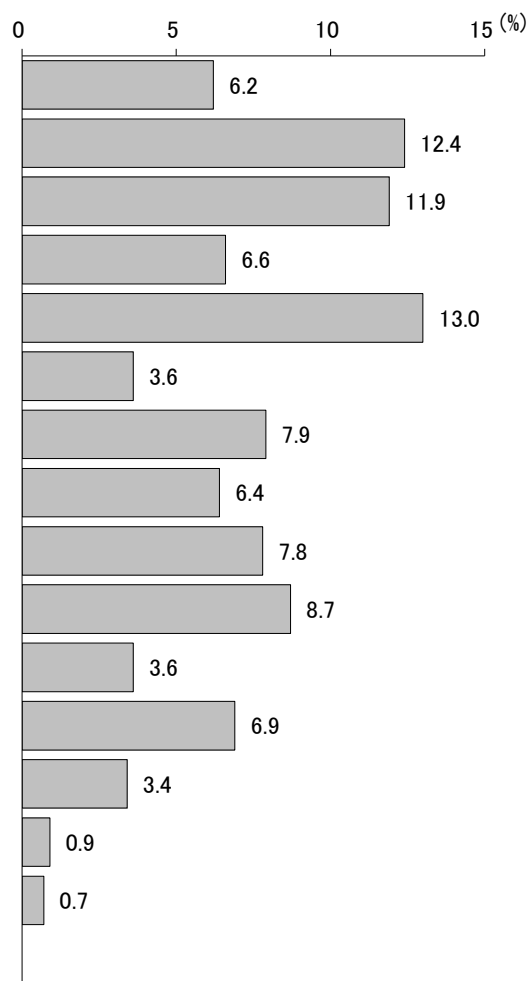
(3) 婚姻状況

	基数	構成比
独身	355	24.9%
既婚	1,062	74.5%
無回答	9	0.6%
全 体	1,426	100.0%



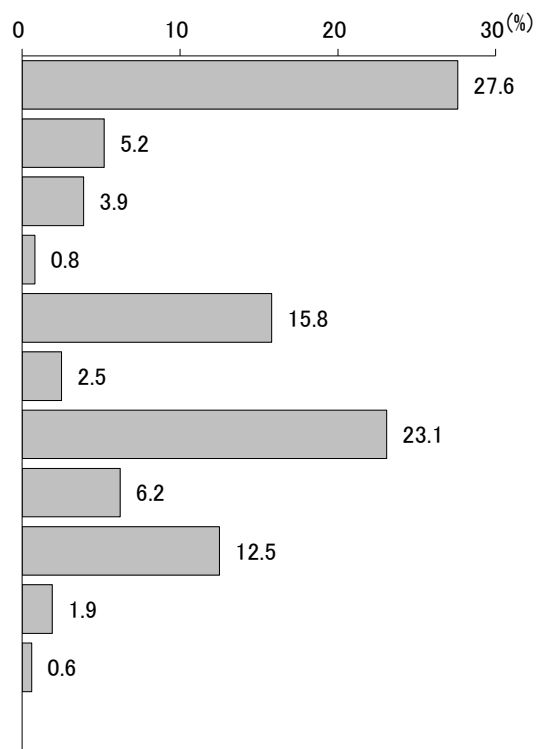
(4) 居住地区

	基数	構成比
片瀬	89	6.2%
鵜沼	177	12.4%
辻堂	169	11.9%
村岡	94	6.6%
藤沢	186	13.0%
明治	52	3.6%
善行	112	7.9%
湘南大庭	91	6.4%
六会	111	7.8%
湘南台	124	8.7%
遠藤	52	3.6%
長後	98	6.9%
御所見	48	3.4%
わからない	13	0.9%
無回答	10	0.7%
全体	1,426	100.0%



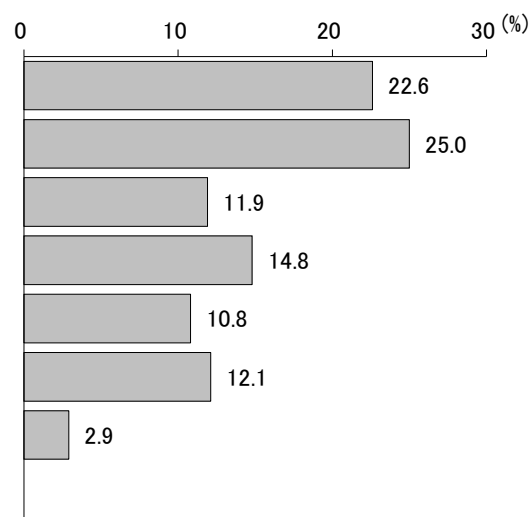
(5) 職業

	基数	構成比
会社員	394	27.6%
自営業・家族従業者	74	5.2%
公務員	55	3.9%
団体職員	12	0.8%
派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト	225	15.8%
会社役員・団体役員	35	2.5%
主婦・主夫	330	23.1%
学生	88	6.2%
無職(主婦・主夫、学生を除く)	178	12.5%
その他	27	1.9%
無回答	8	0.6%
全体	1,426	100.0%



(6) 世帯全体の年間収入

	基数	構成比
300万円未満	322	22.6%
300万円以上～500万円未満	356	25.0%
500万円以上～600万円未満	170	11.9%
600万円以上～800万円未満	211	14.8%
800万円以上～1,000万円未満	154	10.8%
1,000万円以上	172	12.1%
無回答	41	2.9%
全体	1,426	100.0%

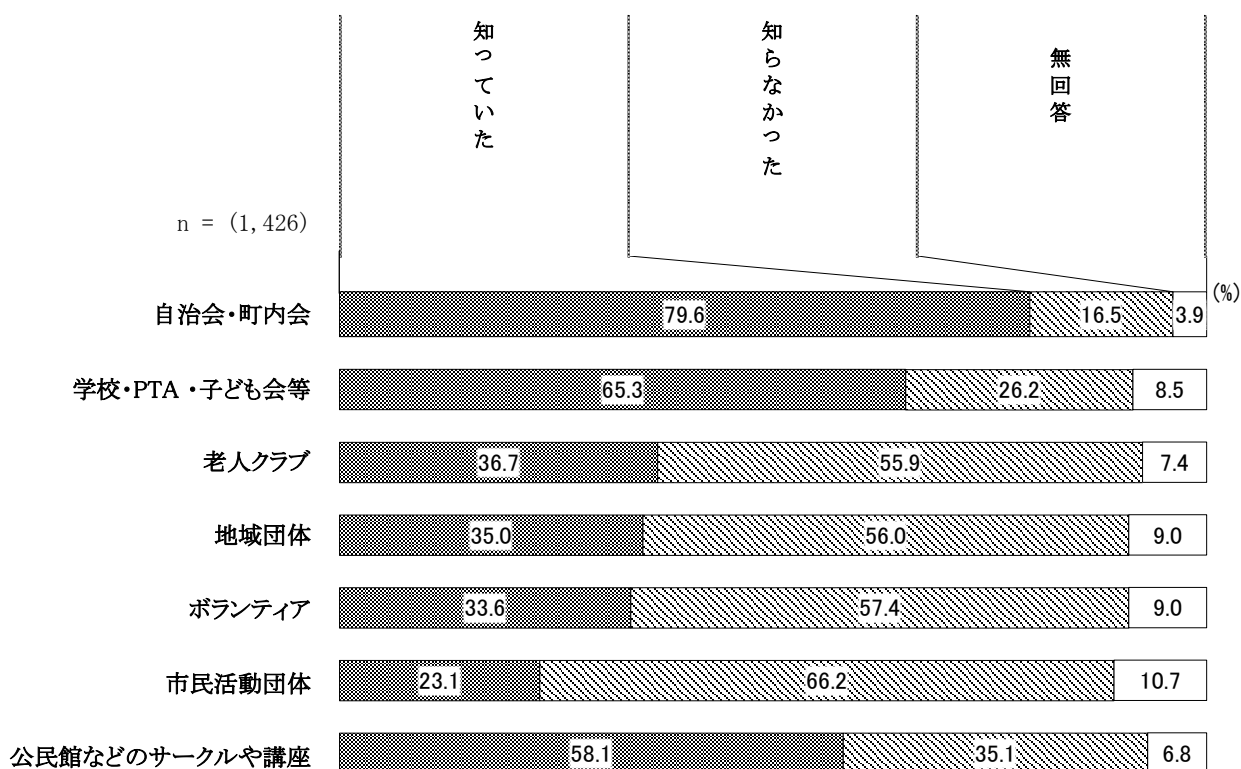


2. 地域活動について

(1) 地域活動の周知状況

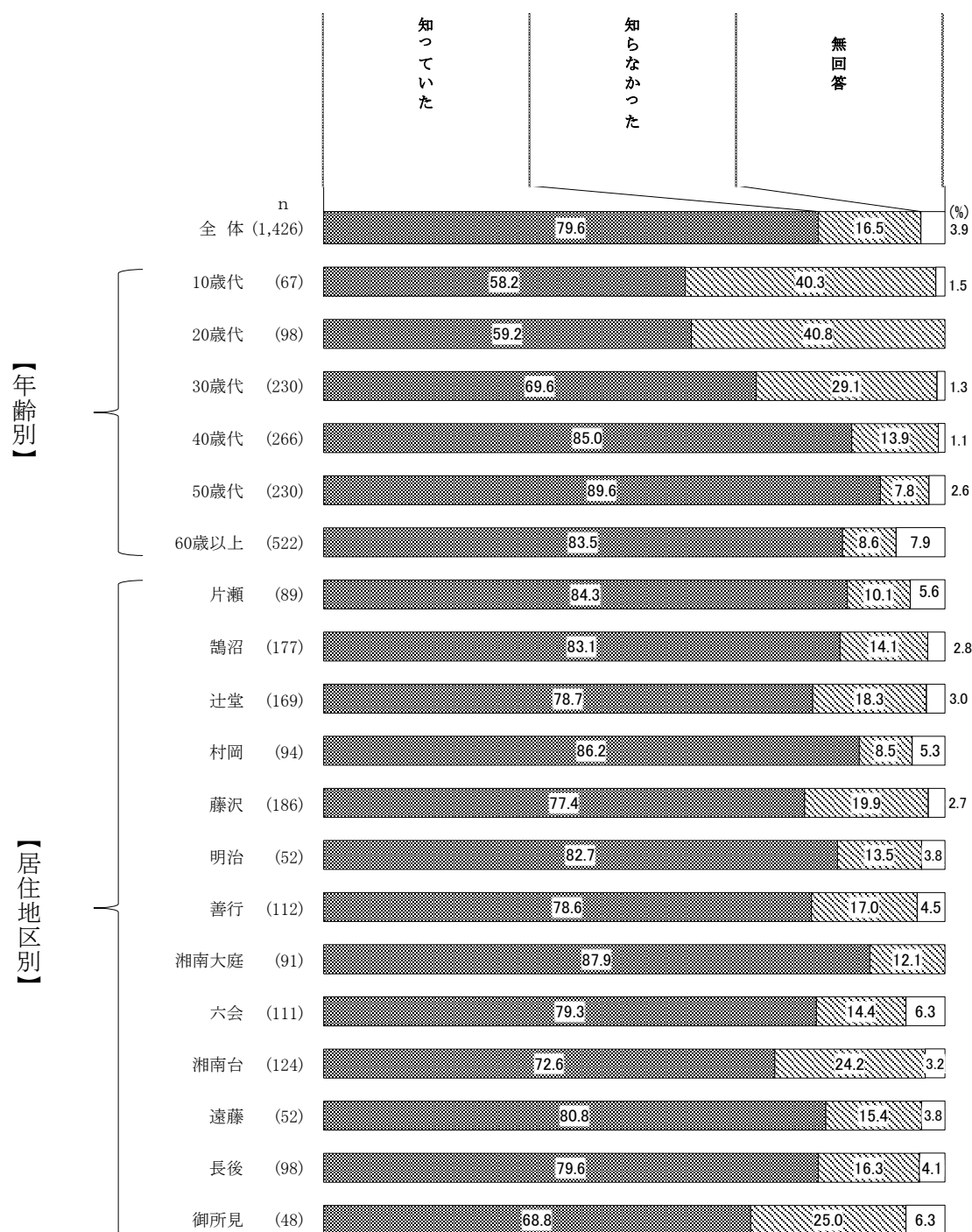
問2-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに〇)

【図表1：地域活動の周知状況】



地域活動の周知状況で「知っていた」については、「自治会・町内会」が79.6%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(65.3%)、「公民館などのサークルや講座」(58.1%)の順となっている。一方、「知らなかった」については、「市民活動団体」が66.2%と最も高く、次いで「ボランティア」(57.4%)、「地域団体」(56.0%)、「老人クラブ」(55.9%)の順となっている。

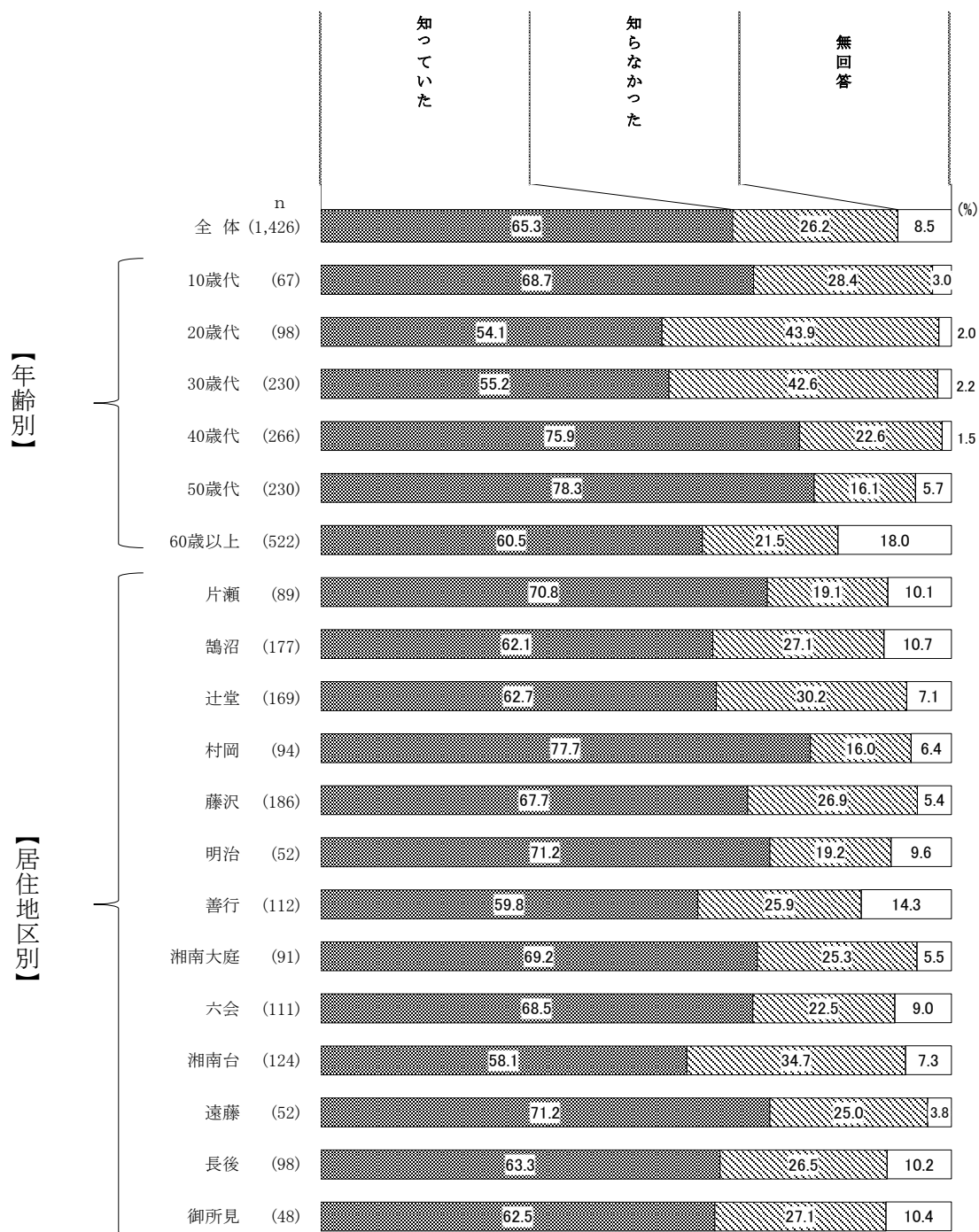
【図表2：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況①】自治会・町内会



「知っていた」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、50歳代が89.6%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、片瀬（84.3%）、鵜沼（83.1%）、村岡（86.2%）、明治（82.7%）、湘南大庭（87.9%）、遠藤（80.8%）が8割を超えて高くなっている。

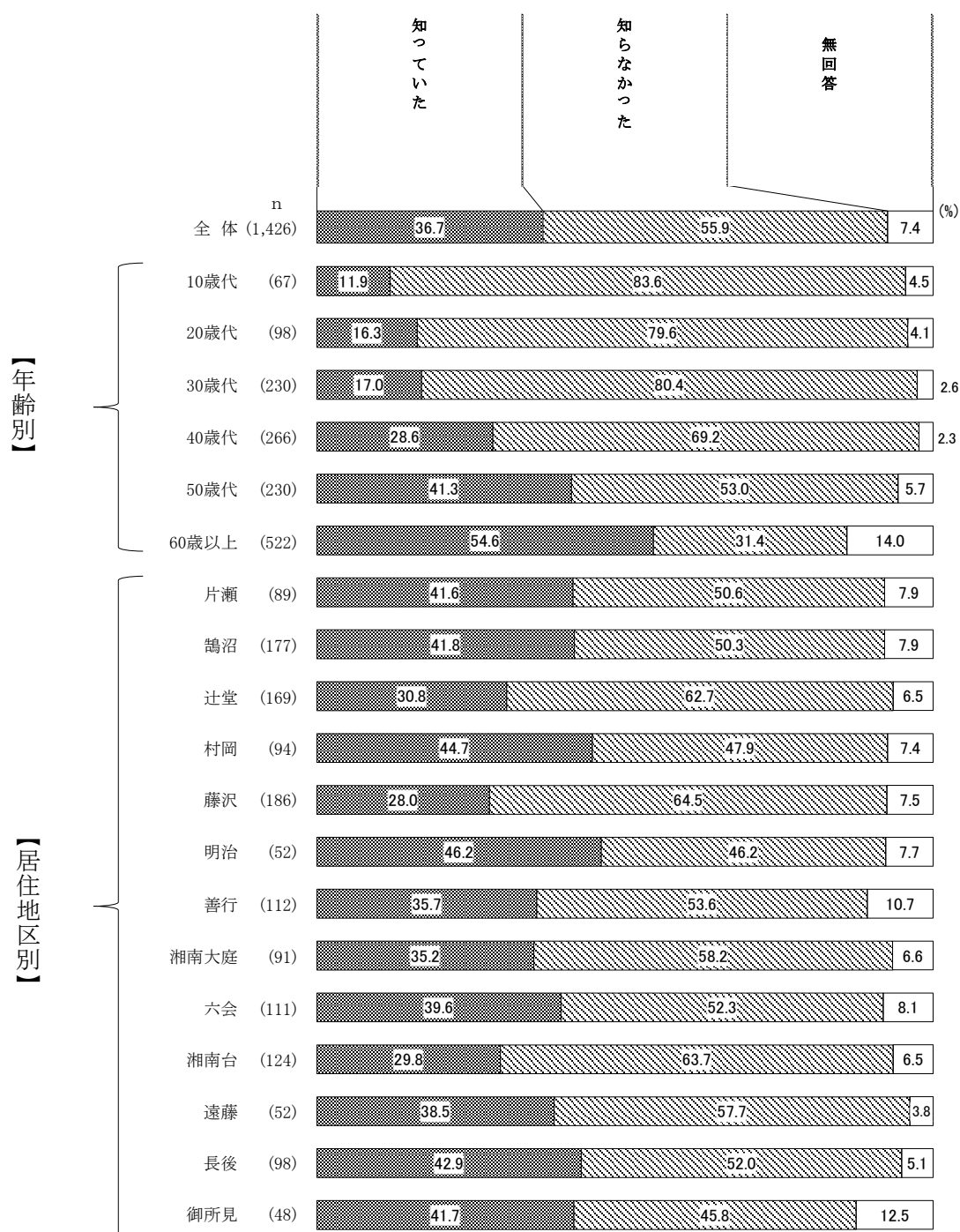
【図表3：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況②】 学校・PTA・子ども会等



「知っていた」を年齢別で見ると、40歳代（75.9%）と50歳代（78.3%）が7割を超えて高くなっている。次いで、10歳代が68.7%、60歳以上が60.5%となっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が77.7%で最も高くなっている。次いで、明治と遠藤がともに71.2%となっている。

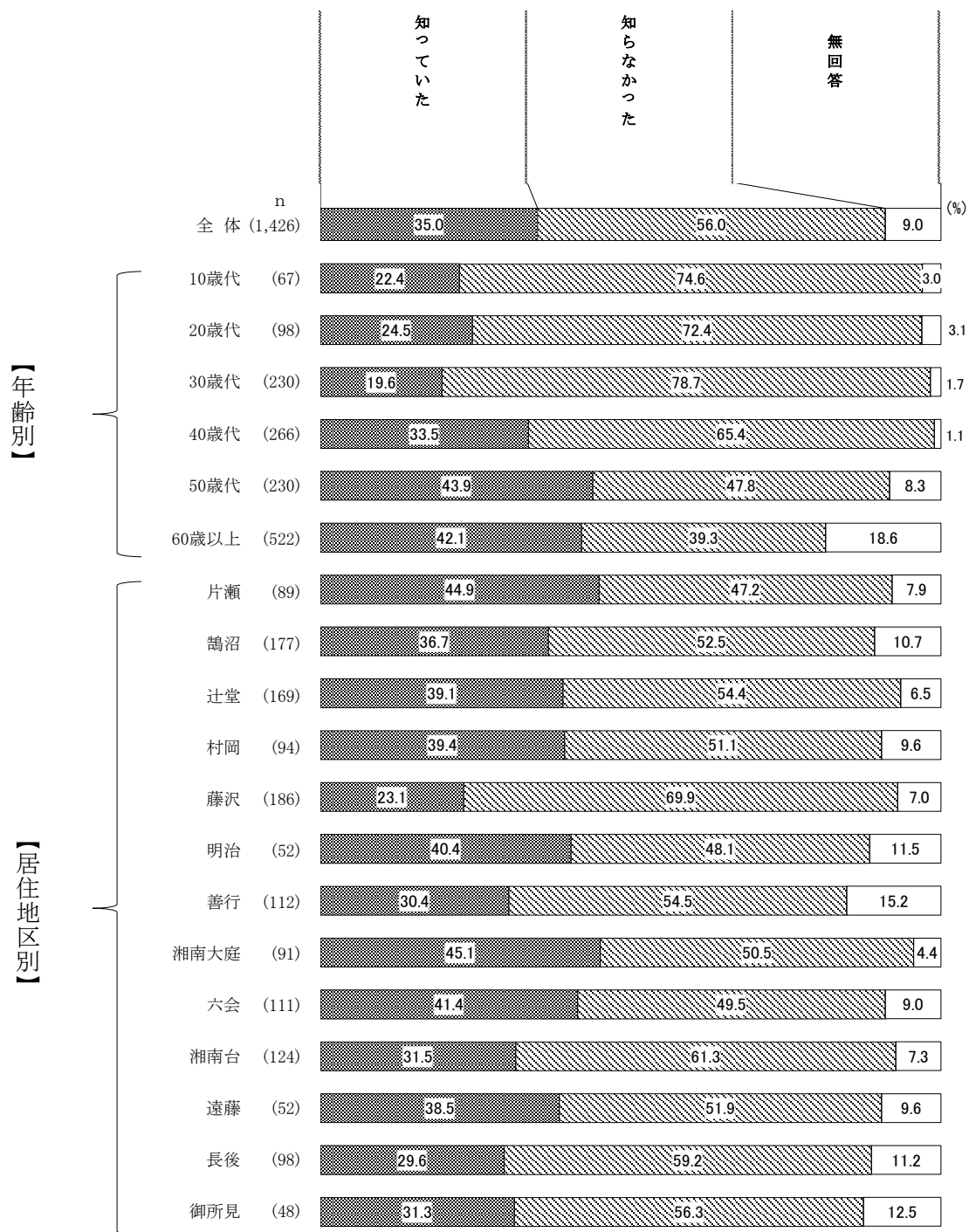
【図表4：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況③】老人クラブ



「知っていた」を年齢別で見ると、年代が上がるにつれて高くなっており、60歳以上が54.6%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡（44.7%）と明治（46.2%）が4割台半ばと高くなっている。

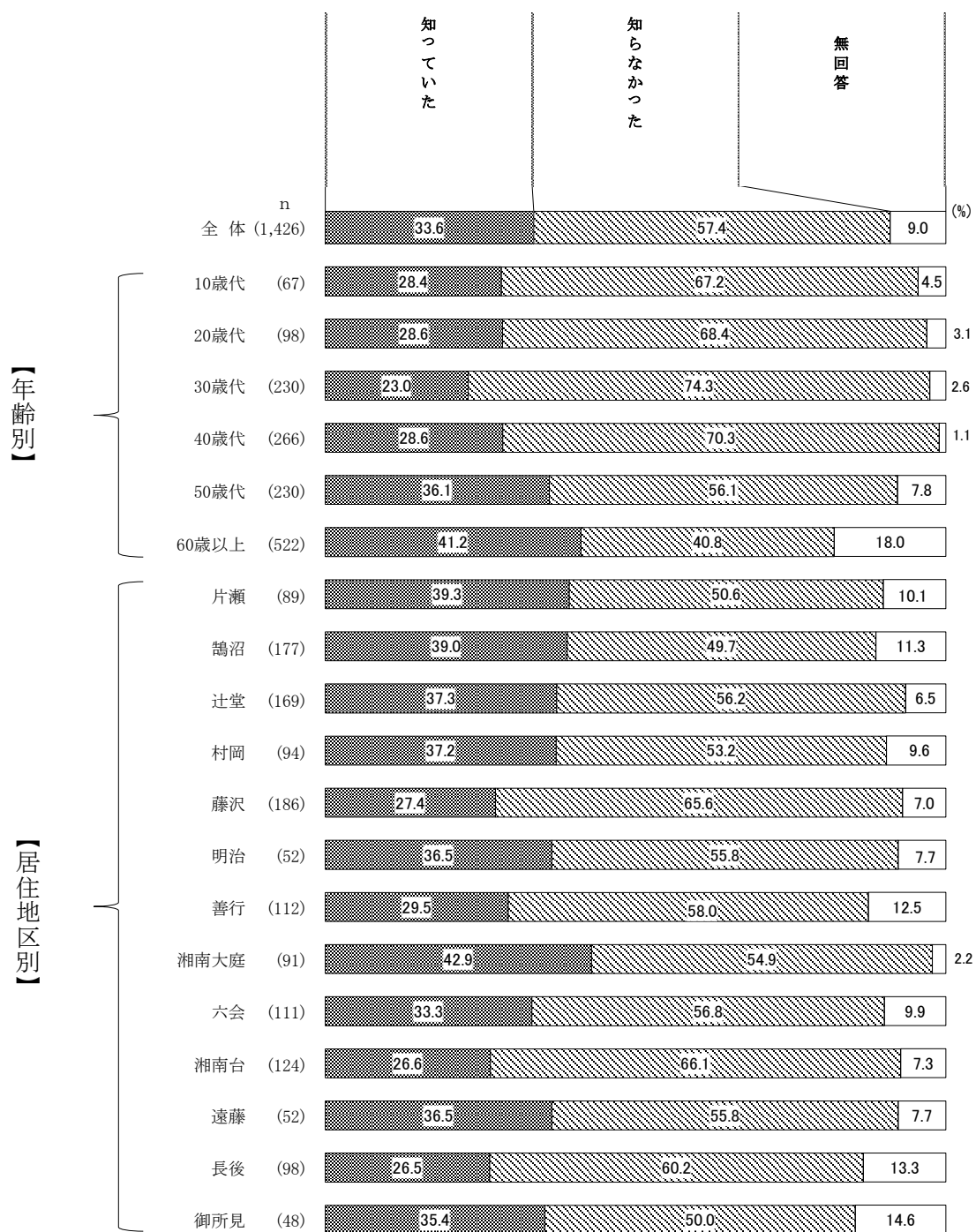
【図表5：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況④】**地域団体**



「知っていた」を年齢別で見ると、50歳代（43.9%）と60歳以上（42.1%）が4割を超えて高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、片瀬（44.9%）、明治（40.4%）、湘南大庭（45.1%）、六会（41.4%）が4割を超えて高くなっている。

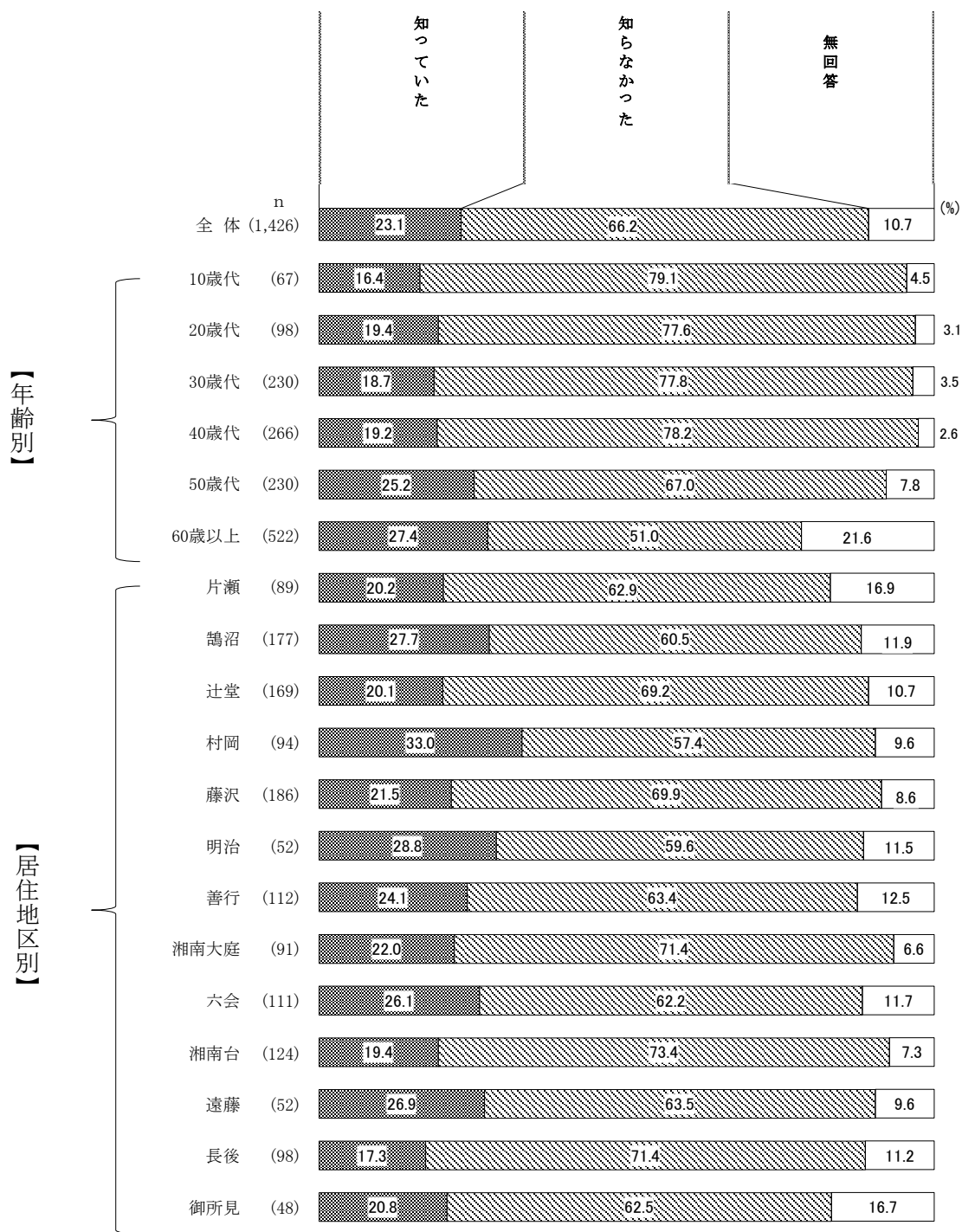
【図表6：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑤】 ボランティア



「知っていた」を年齢別で見ると、60歳以上が41.2%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、湘南大庭が42.9%と最も高くなっている。

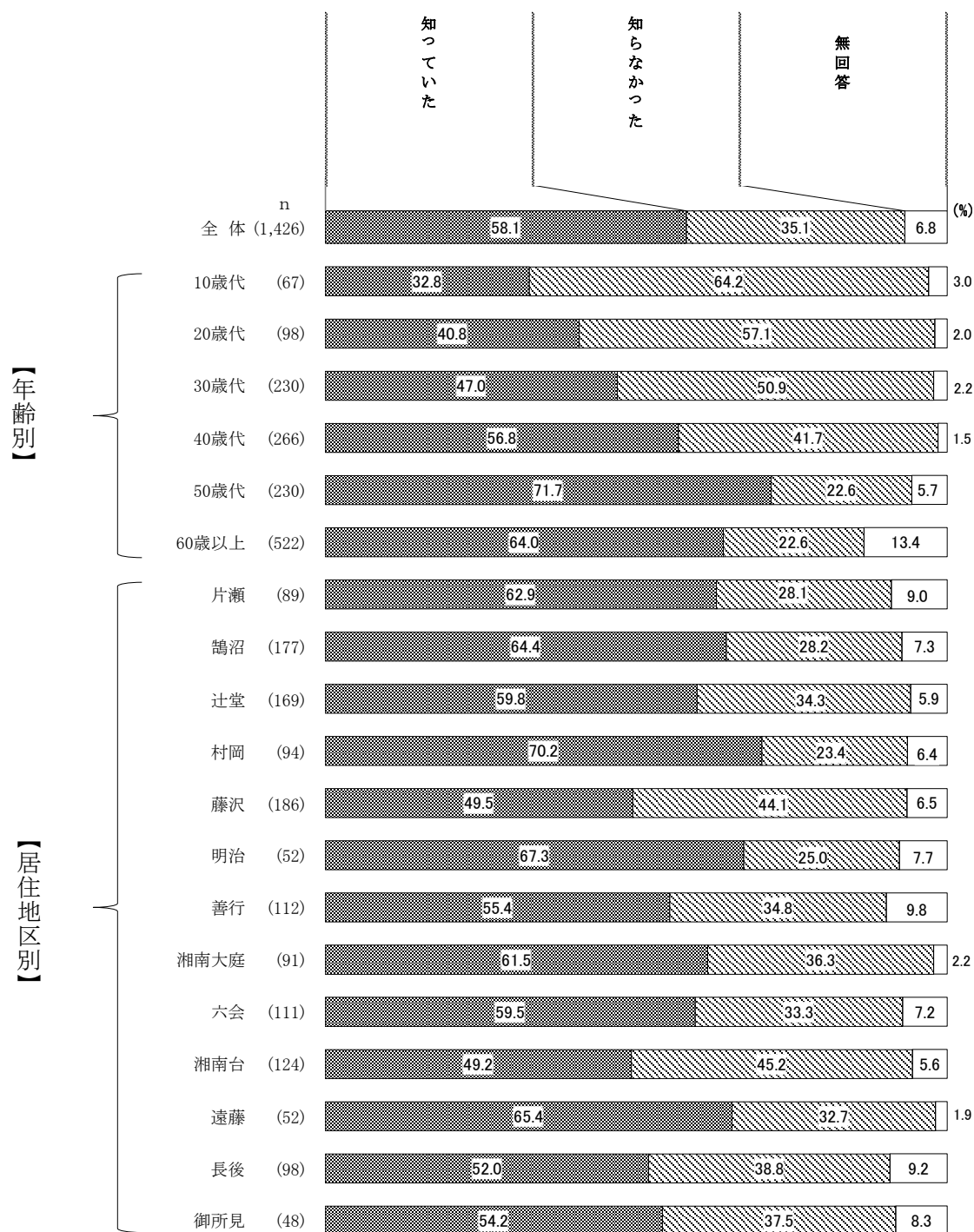
【図表7：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑥】 市民活動団体（NPOを含む）



「知っていた」を年齢別で見ると、50歳代（25.2%）と60歳以上（27.4%）が2割を超えて高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が33.0%と最も高くなっている。

【図表8：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑦】 公民館などのサークルや講座



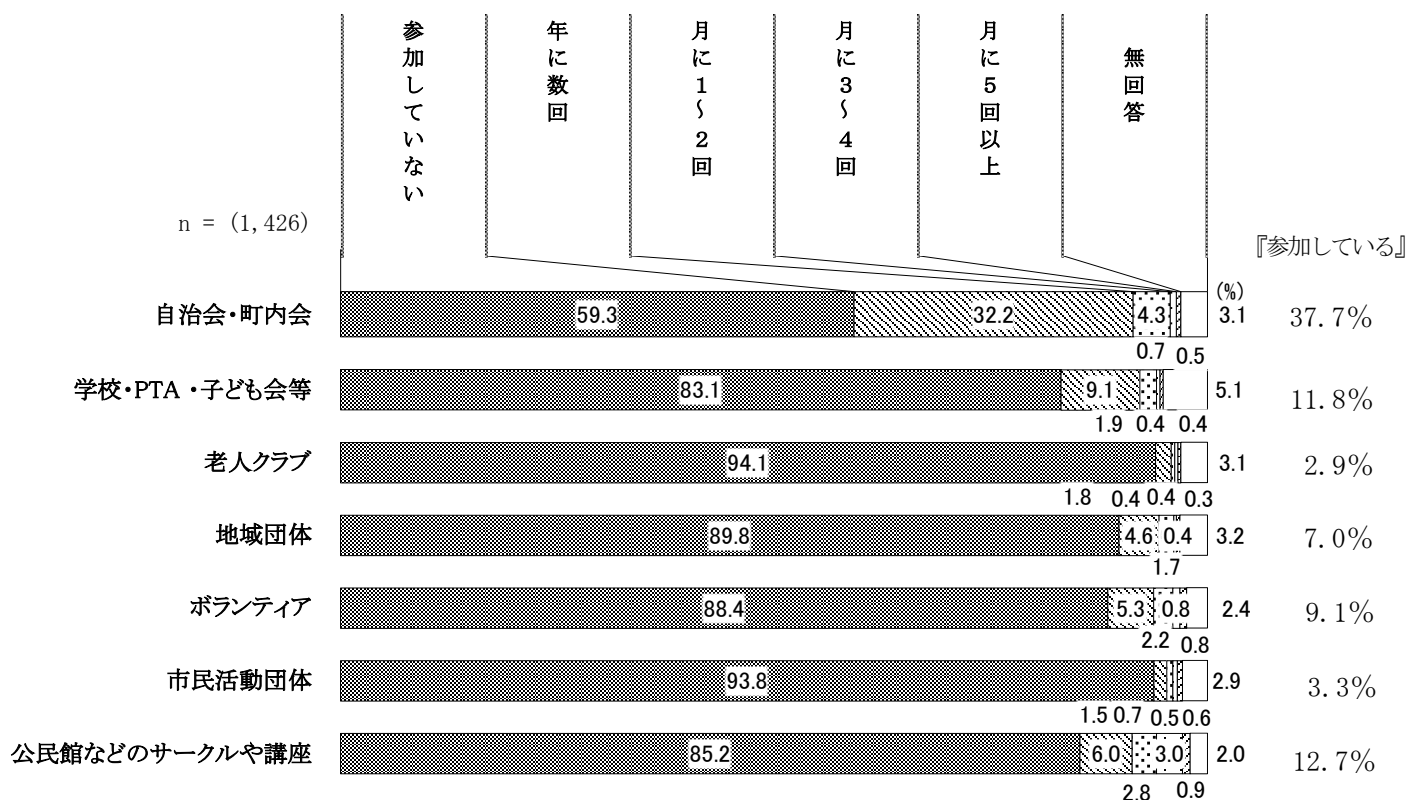
「知っていた」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、50歳代が71.7%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が70.2%と最も高くなっている。

(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由

問2-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)
 また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

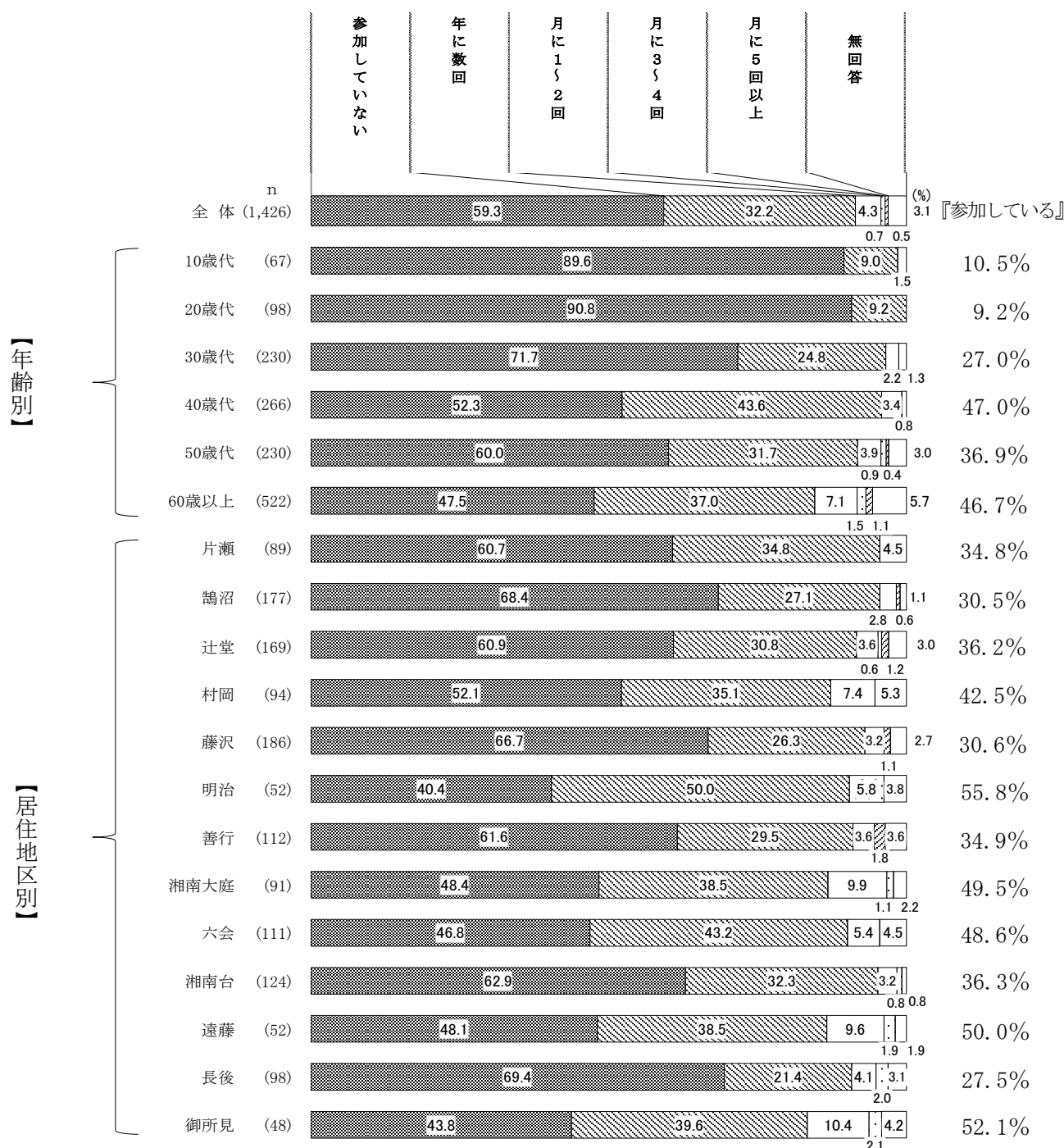
【図表9：地域活動の参加の頻度】



※『参加している』の数値は「年に数回」と「月に2～3回」と「月に3～4回」と「月に5回以上」の合計値である。

地域活動への参加頻度については、「参加していない」は「学校・PTA・子ども会等」83.1%、「老人クラブ」94.1%、「地域団体」89.8%、「ボランティア」88.4%、「市民活動団体」93.8%、「公民館などのサークルや講座」85.2%と、「自治会・町内会」を除く各項目で8割を超えて高くなっている。「年に数回」「月に1～2回」「月に3～4回」「月に5回以上」を合わせた『参加している』は「自治会・町内会」が37.7%で最も高くなっている。

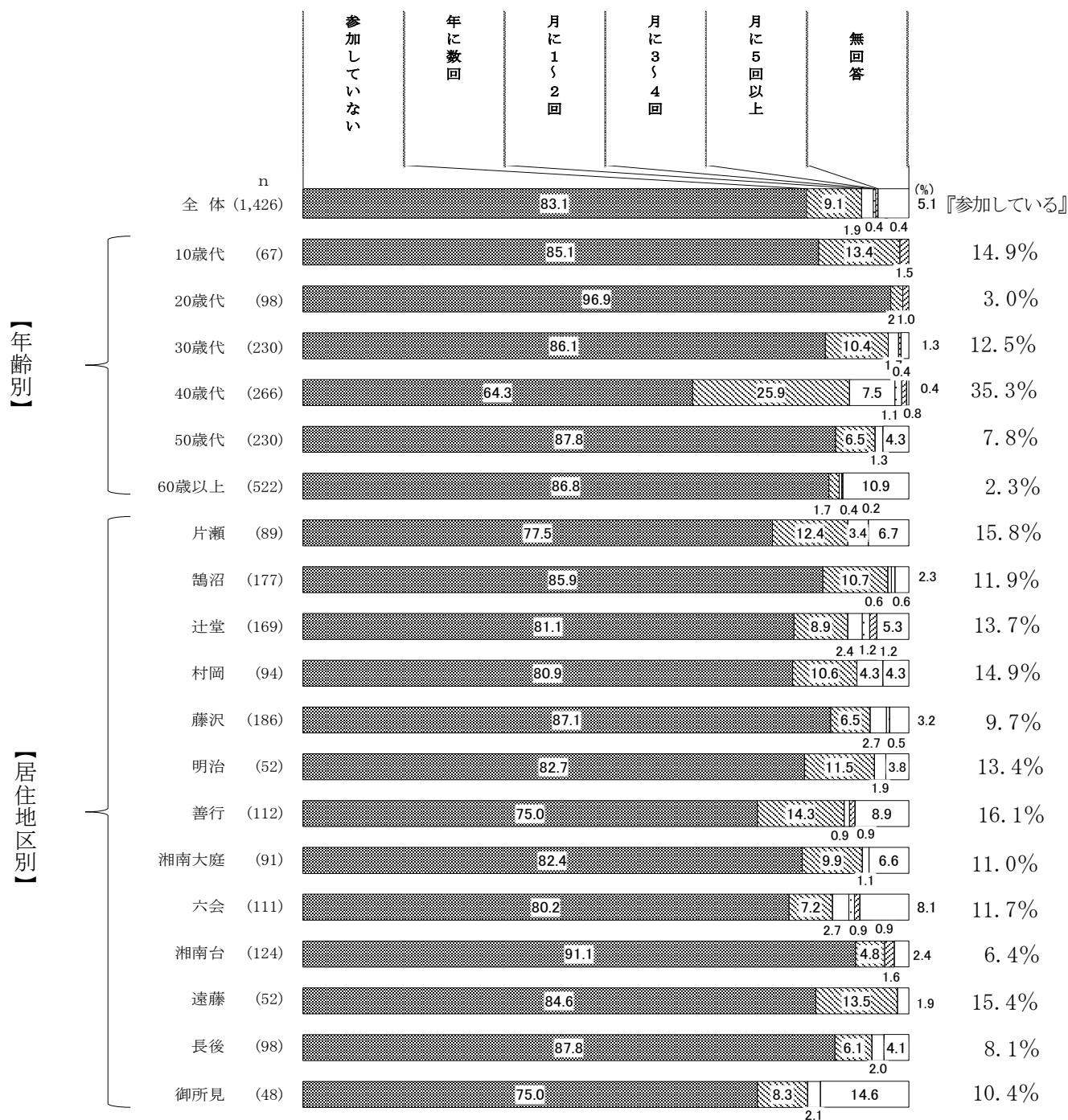
【図表10：年齢別・居住地区別／参加の頻度①】自治会・町内会



「参加していない」を年齢別で見ると、10歳代（89.6%）と20歳代（90.8%）が約9割と高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が46.7%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、鵜沼（68.4%）と長後（69.4%）が約7割と高くなっている。一方、『参加している』は、明治が55.8%と最も高くなっている。

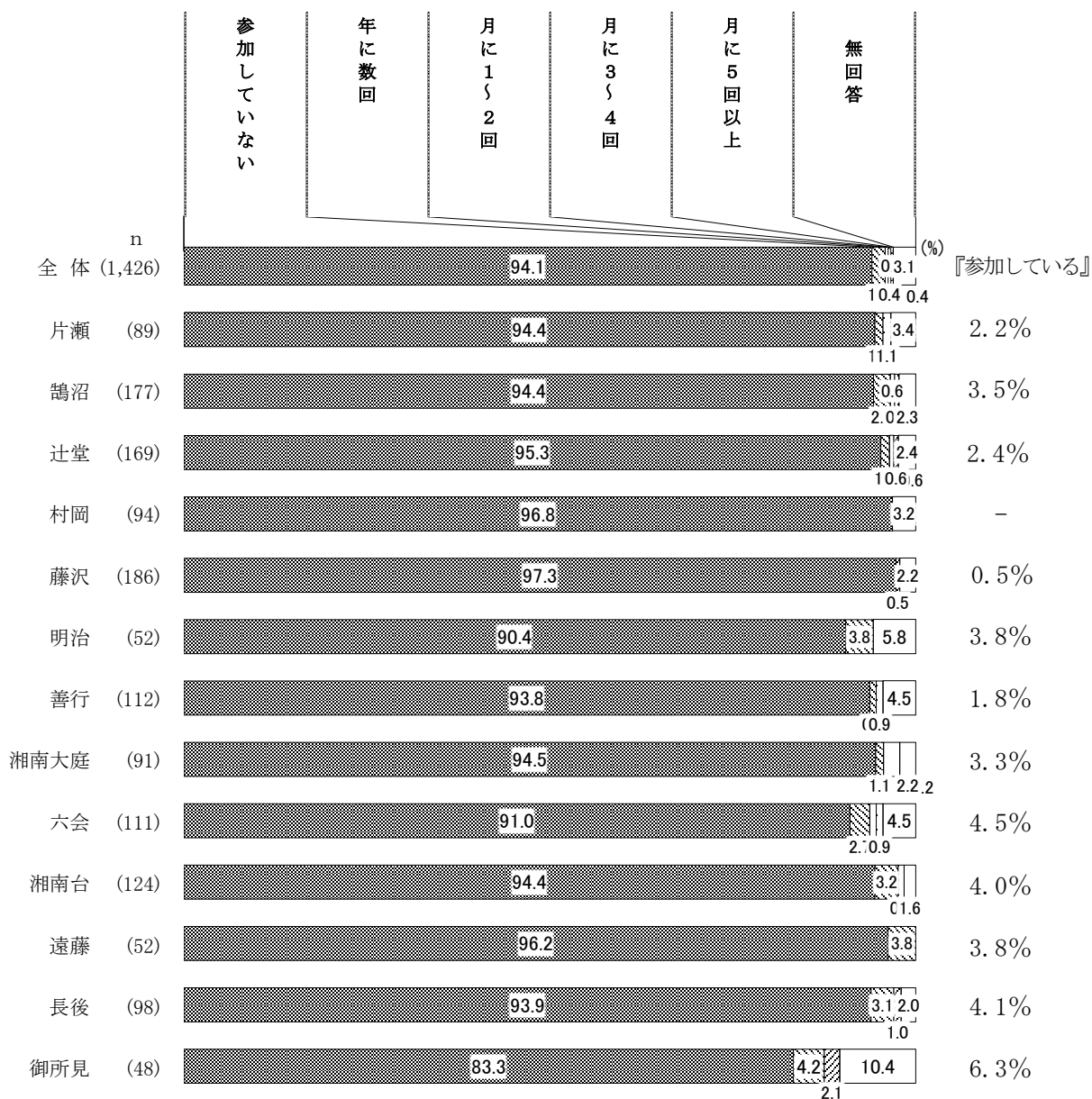
【図表11：年齢別・居住地区別／参加の頻度②】 学校・PTA・子ども会等



「参加していない」を年齢別で見ると、20歳代が96.9%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、40歳代が35.3%と最も高くなっている。

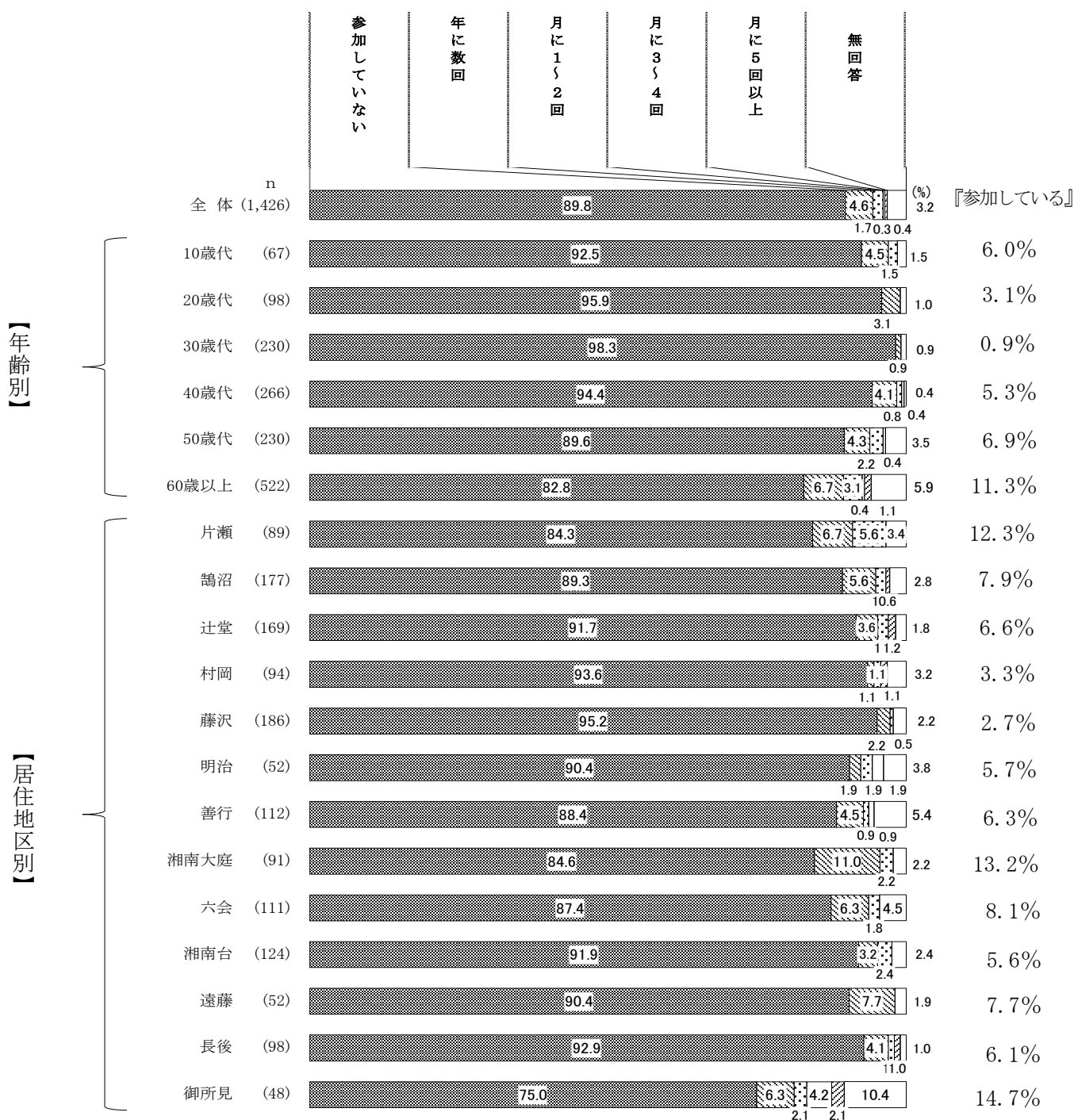
「参加していない」を居住地区別で見ると、湘南台が91.1%と最も高く、次いで長後が87.8%、藤沢が87.1%となっている。一方、『参加している』は、善行が16.1%と最も高くなっている。

【図表12：居住地区別／参加の頻度③】老人クラブ



「参加していない」を居住地区別で見ると、藤沢が97.3%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、御所見が6.3%と最も高くなっている。

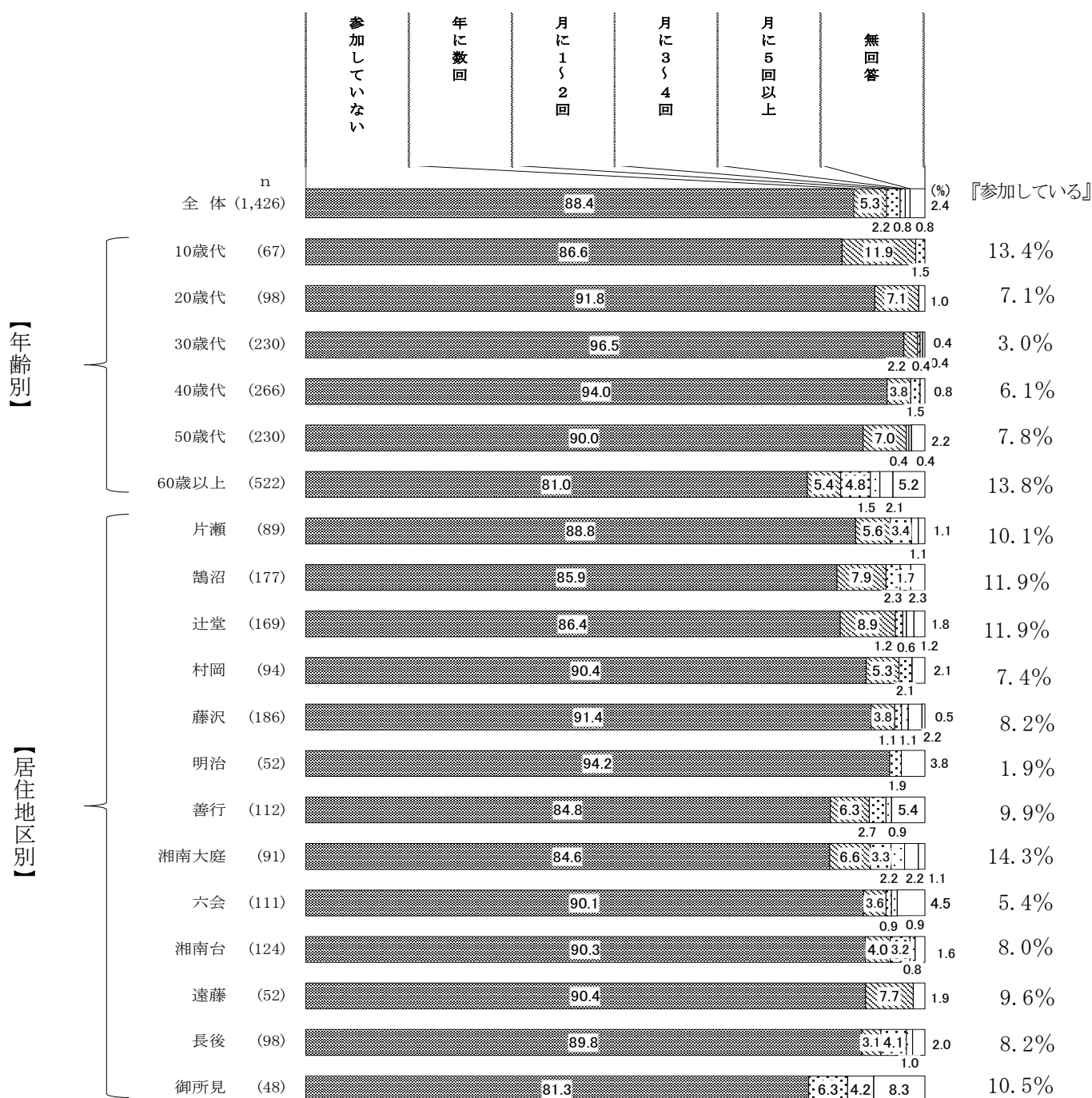
【図表13：年齢別・居住地区別／参加の頻度④】**地域団体**



「参加していない」を年齢別で見ると、30歳代が98.3%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が11.3%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、藤沢が95.2%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、御所見が14.7%と最も高くなっている。

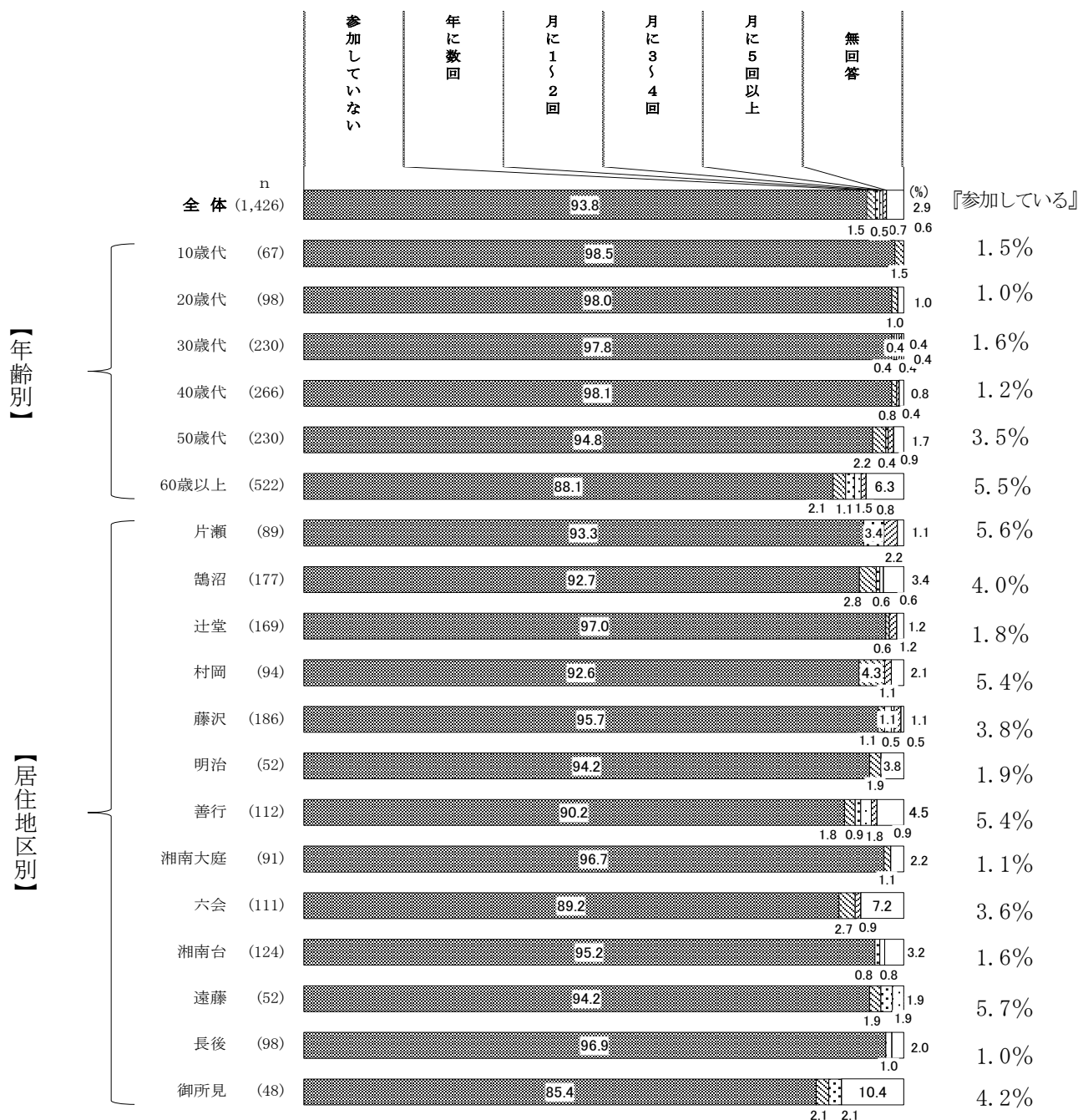
【図表14：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑤】 ボランティア



「参加していない」を年齢別で見ると、30歳代（96.5%）と40歳代（94.0%）が9割台半ばと高くなっている。一方、『参加している』は、10歳代（13.4%）と60歳以上（13.8%）が1割台半ばと高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、明治が94.2%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、湘南大庭が14.3%と最も高くなっている。

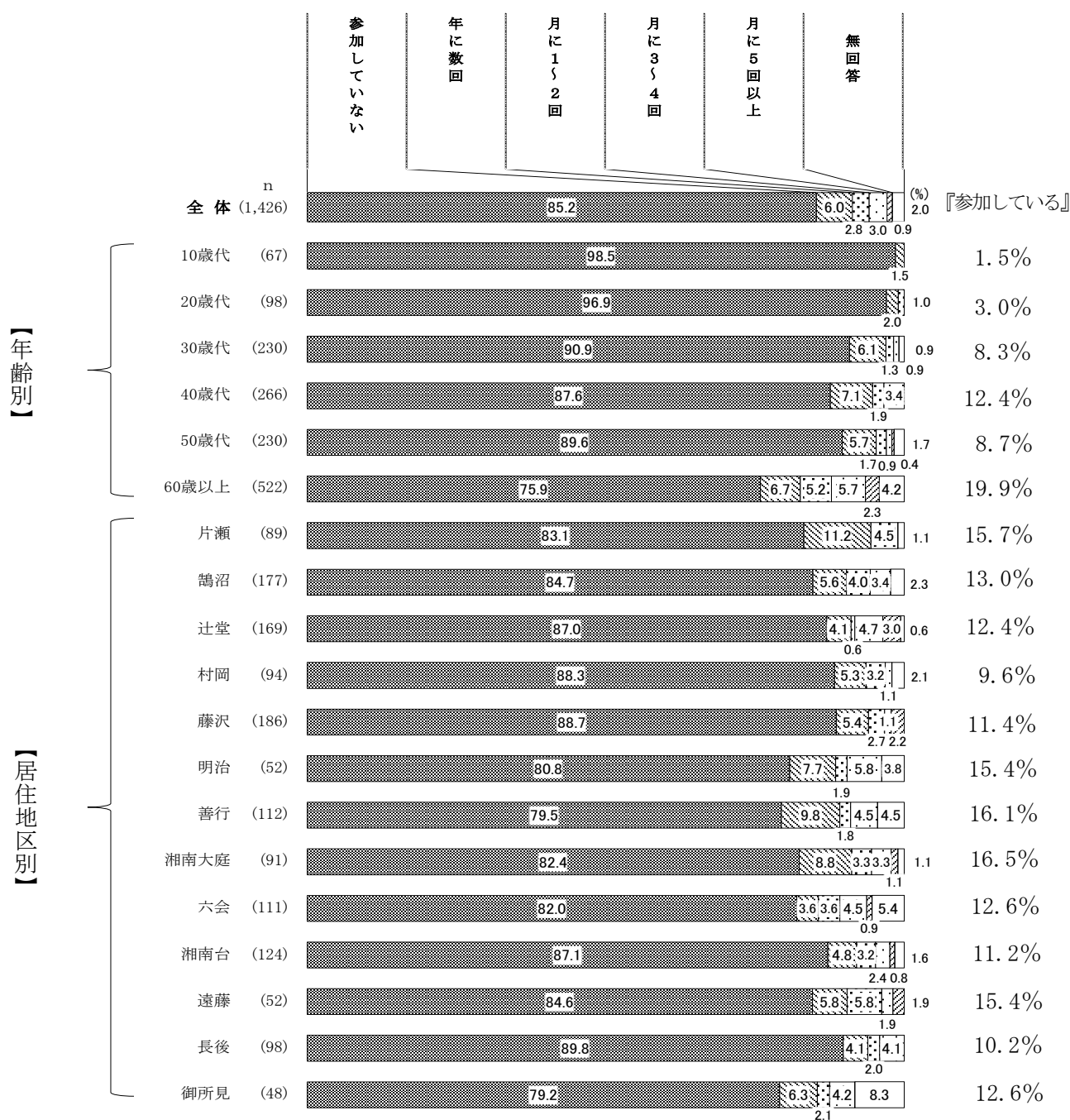
【図表15：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑥】 市民活動団体（NPOを含む）



「参加していない」を年齢別で見ると、60歳以上を除いたすべての年代が90%を超えて高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が5.5%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、六会と御所見を除いたすべての地区が90%を超えて高くなっている。一方、『参加している』は、片瀬が5.6%、村岡と善行が5.4%、遠藤が5.7%と高くなっている。

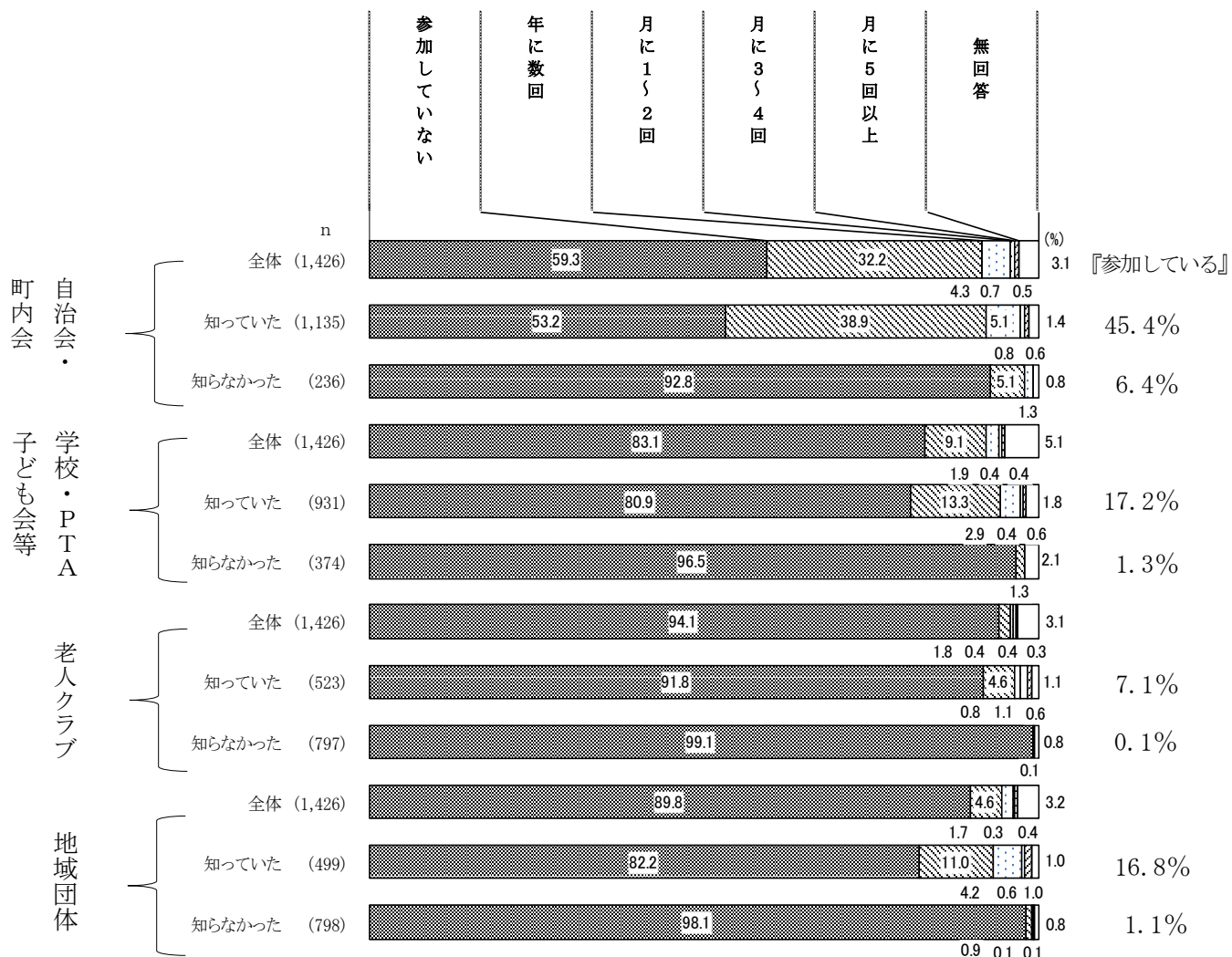
【図表16：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑦】 公民館などのサークルや講座



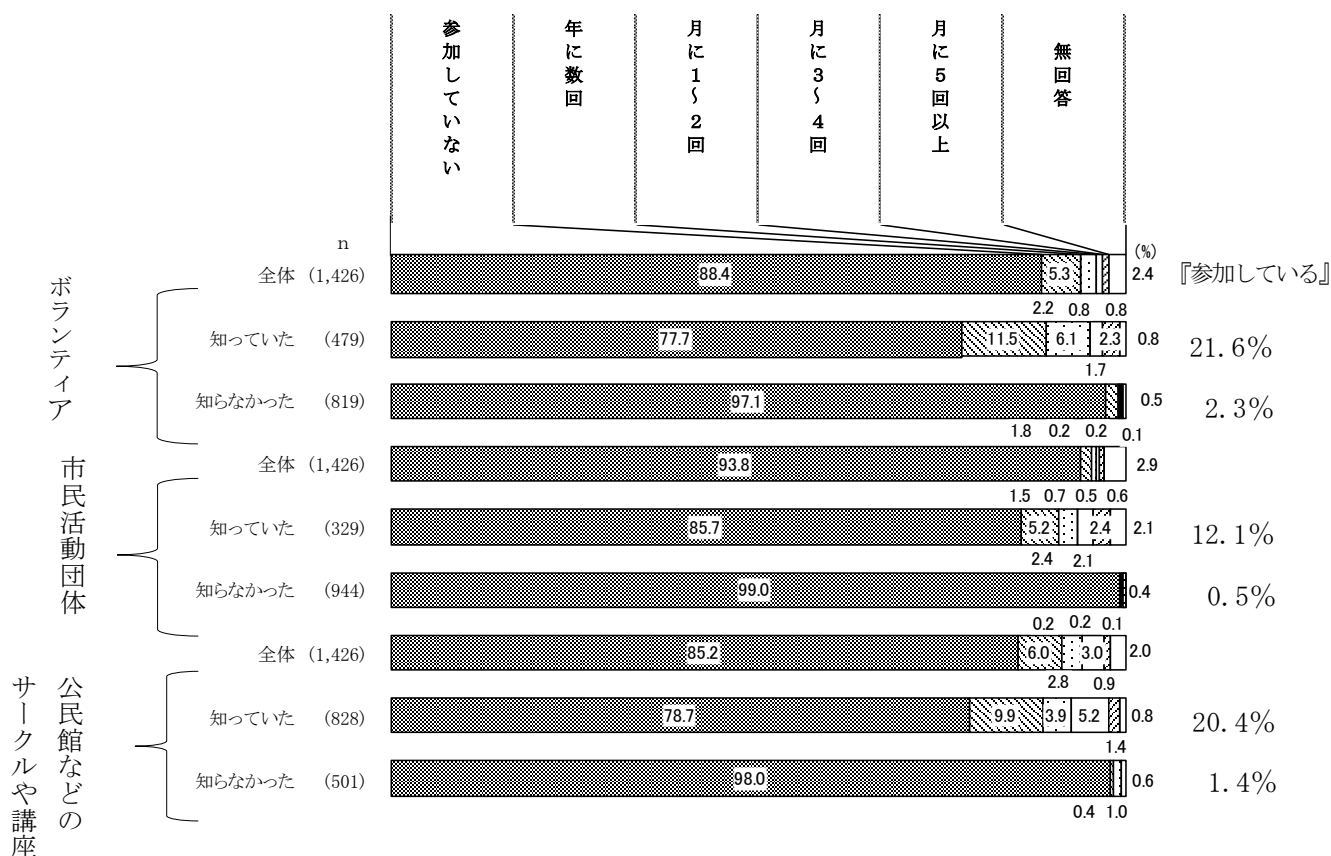
「参加していない」を年齢別で見ると、10歳代が98.5%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が19.9%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、長後（89.8%）、藤沢（88.7%）、村岡（88.3%）が約9割と高くなっている。一方、『参加している』は、善行（16.1%）と湘南大庭（16.5%）が1割台半ばと高くなっている。

【図表17：地域活動の周知状況別／参加の頻度①】

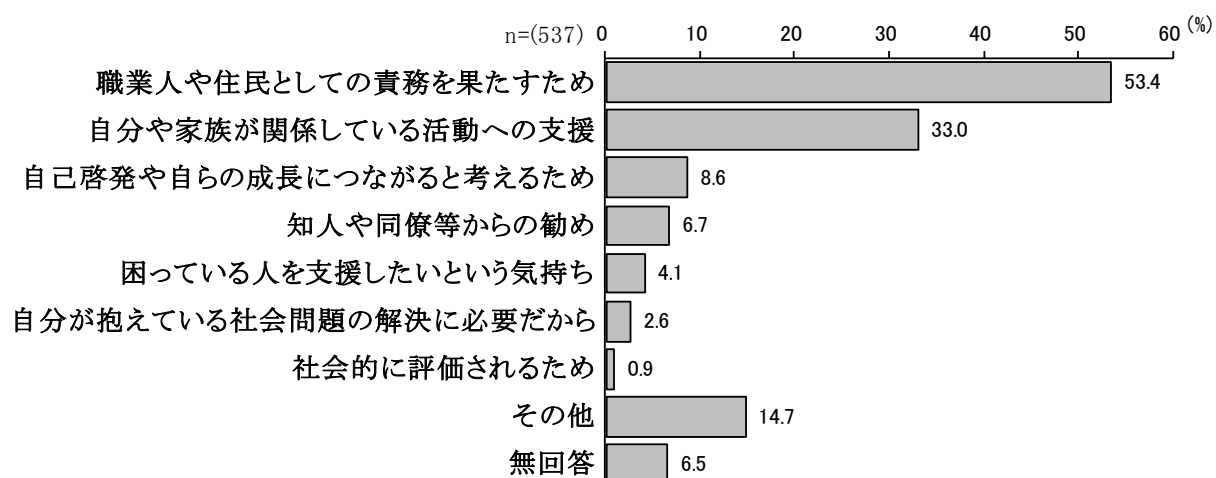


【図表18：地域活動の周知状況別／参加の頻度②】



地域活動の周知状況別でみると、「自治会・町内会」は「知っていた」で『参加している』は45.4%となっている。「学校・PTA・子ども会等」は「知っていた」で『参加している』は17.2%となっている。「老人クラブ」は「知っていた」で『参加している』は7.1%となっている。「地域団体」は「知っていた」で『参加している』は16.8%となっている。「ボランティア」は「知っていた」で『参加している』は21.6%となっている。「市民活動団体（NPOを含む）」は「知っていた」で『参加している』は12.1%となっている。「公民館などのサークルや講座」は「知っていた」で『参加している』は20.4%となっている。

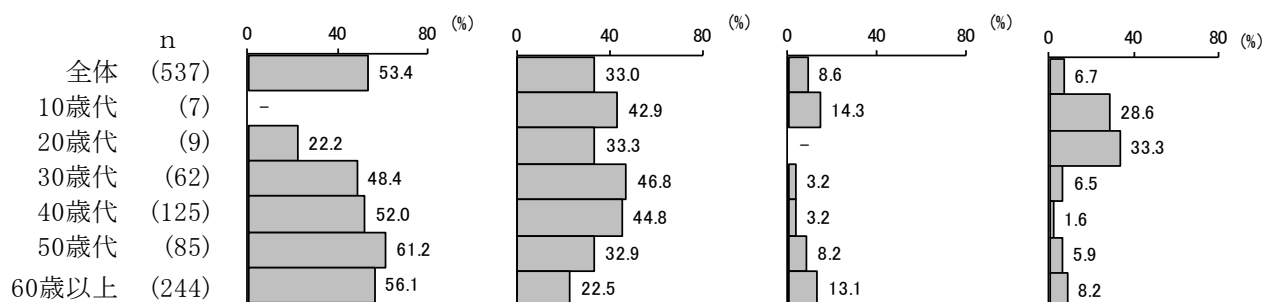
【図表19：地域活動の参加の理由】自治会・町内会



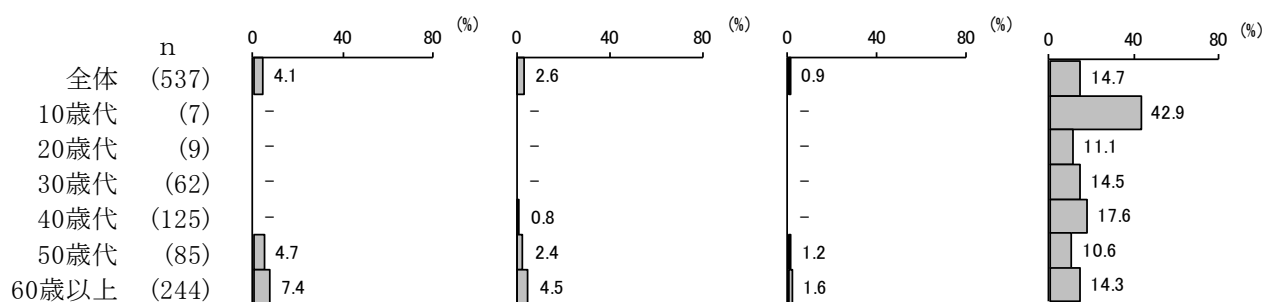
自治会・町内会への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が53.4%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」(33.0%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(8.6%)の順となっている。

【図表20：年齢別／参加の理由】**自治会・町内会**上位8項目

- 職業人や住民としての責務を果たすため
- 自分や家族が関係している活動への支援
- 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
- 知人や同僚等からの勧め

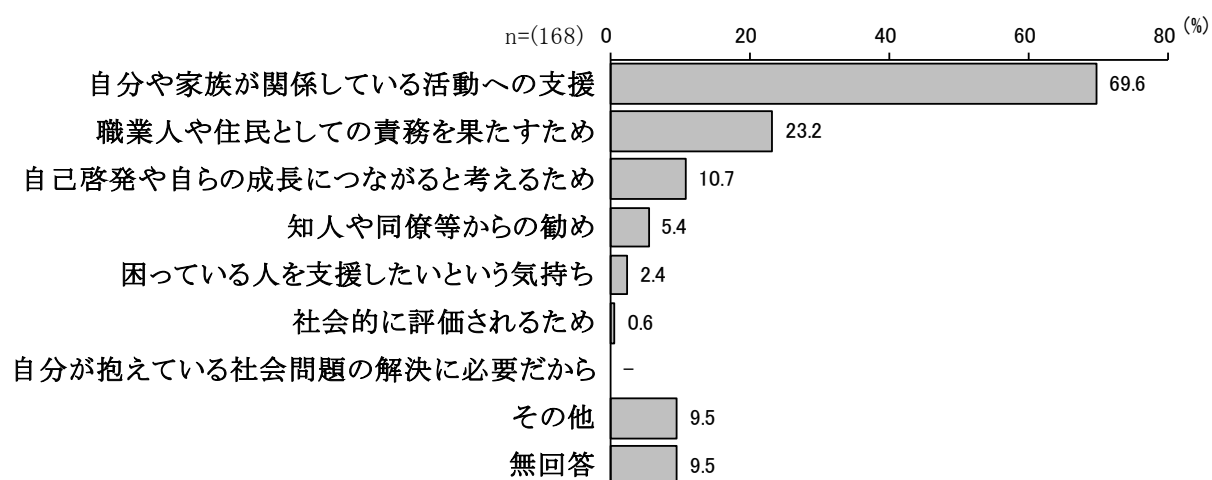


- 困っている人を支援したいという気持ち
- 自分が抱えている社会問題の解決に必要だから
- 社会的に評価されるため
- その他



「職業人や住民としての責務を果たすため」を年齢別で見ると、50歳代が61.2%と最も高くなっている。「自分や家族が関係している活動への支援」は30歳代（46.8%）と40歳代（44.8%）が4割台半ばと高くなっている。

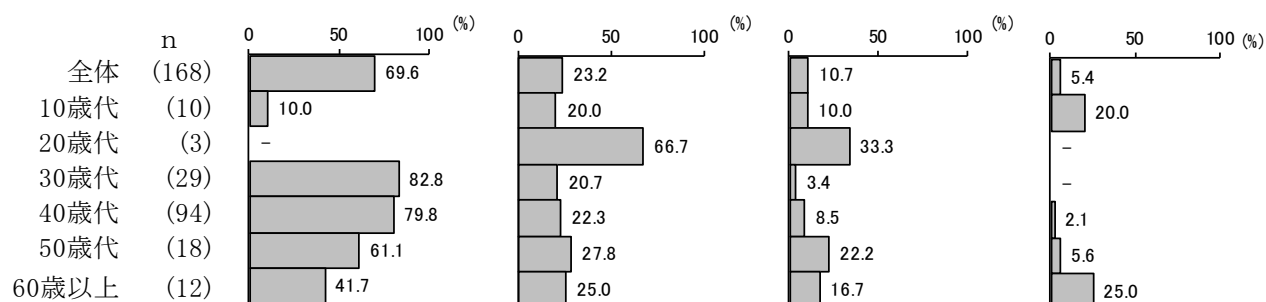
【図表21：地域活動の参加の理由】**学校・PTA・子ども会等**



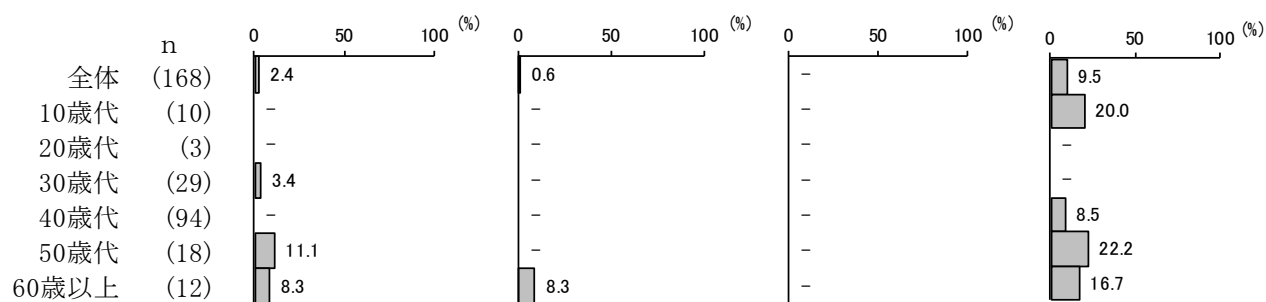
学校・PTA・子ども会等への参加理由については、「自分や家族が関係している活動への支援」が69.6%と最も高く、次いで、「職業人や住民としての責務を果たすため」(23.2%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(10.7%)の順となっている。

【図表22：年齢別／参加の理由】**学校・PTA・子ども会等**上位8項目

- 自分や家族が関係している活動への支援
- 職業人や住民としての責務を果たすため
- 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
- 知人や同僚等からの勧め

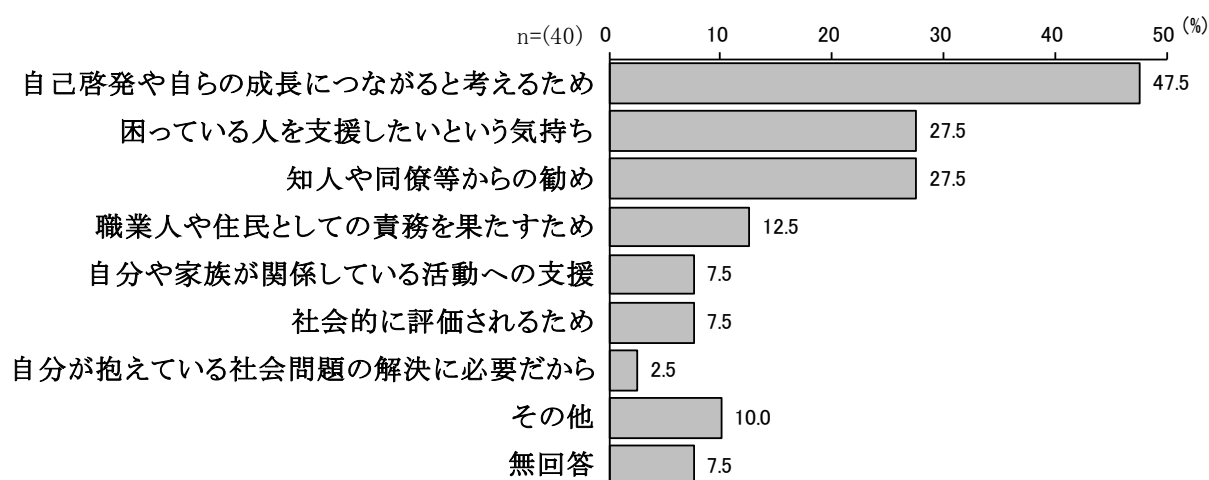


- 困っている人を支援したいという気持ち
- 社会的に評価されるため
- 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
- その他



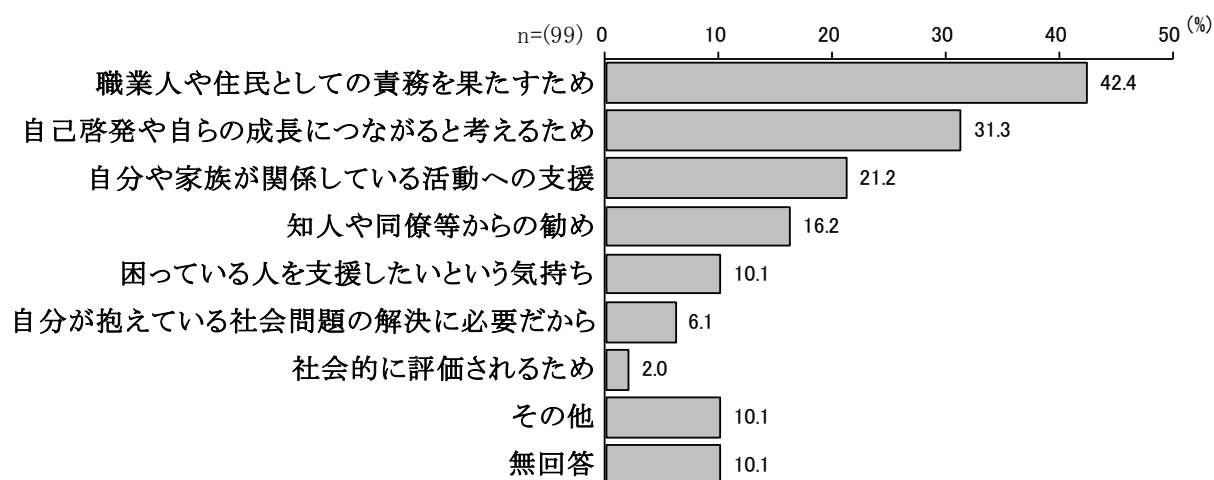
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表23：地域活動の参加の理由】老人クラブ



老人クラブへの参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が47.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」及び「知人や同僚等からの勧め」(27.5%)の順となっている。

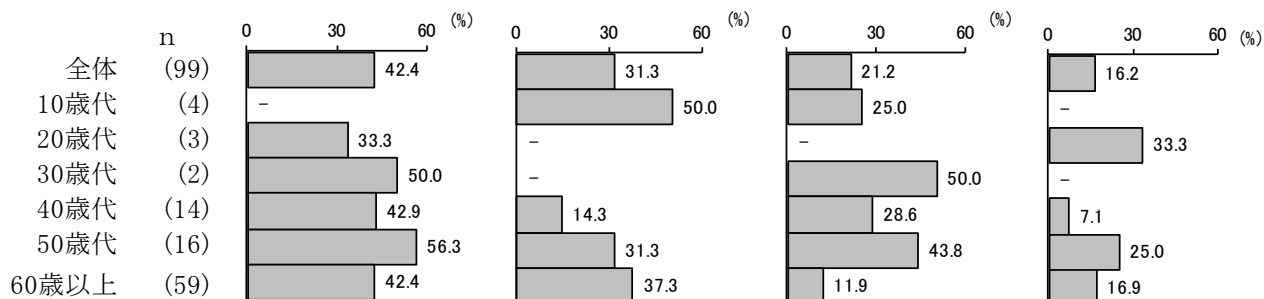
※老人クラブに関しては、加入年齢が原則として60歳以上となっているため、年齢別グラフは省略する。

【図表24：地域活動の参加の理由】**地域団体**

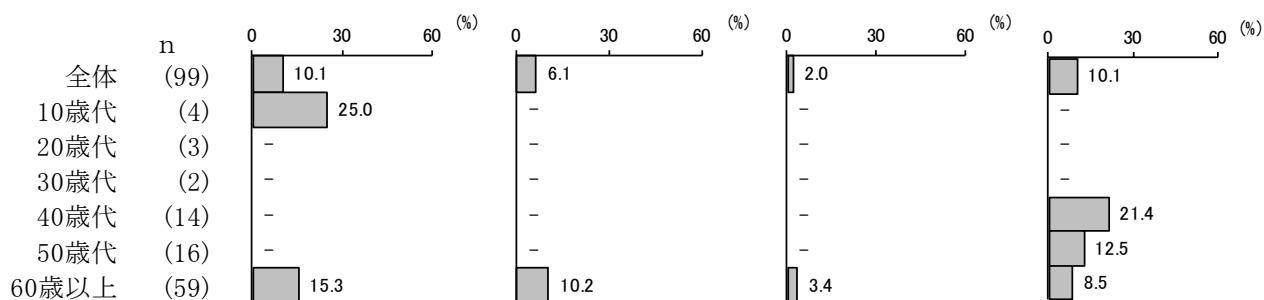
地域団体への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が42.4%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(31.3%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(21.2%)の順となっている。

【図表25：年齢別／参加の理由】**地域団体**上位8項目

- 職業人や住民としての責務を果たすため
- 自己啓発や自らの成長につながるため
- 自分や家族が関係している活動への支援
- 知人や同僚等からの勧め

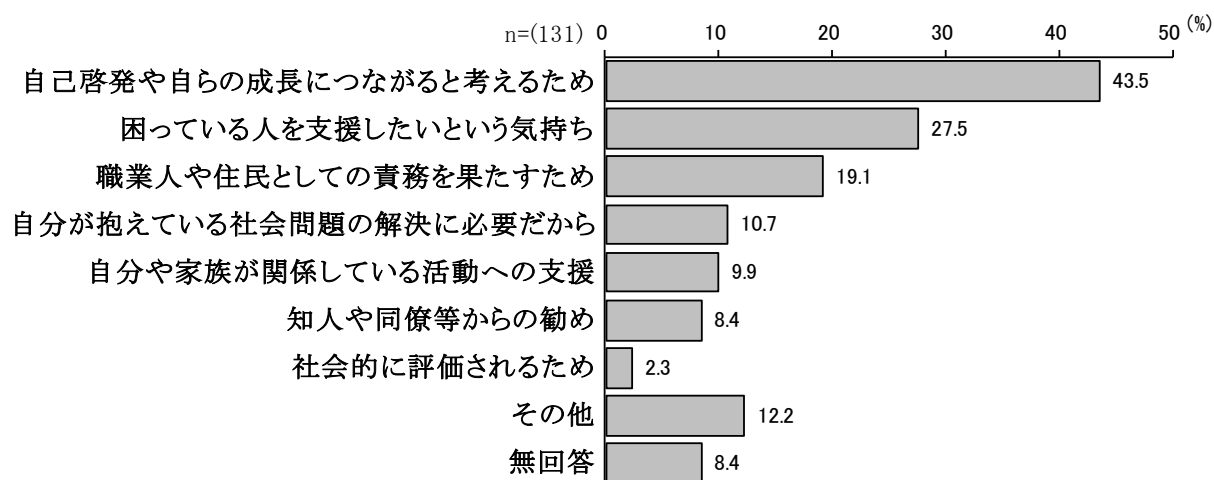


- 困っている人を支援したいという気持ち
- 自分が抱えている社会問題の解決に必要だから
- 社会的に評価されるため
- その他



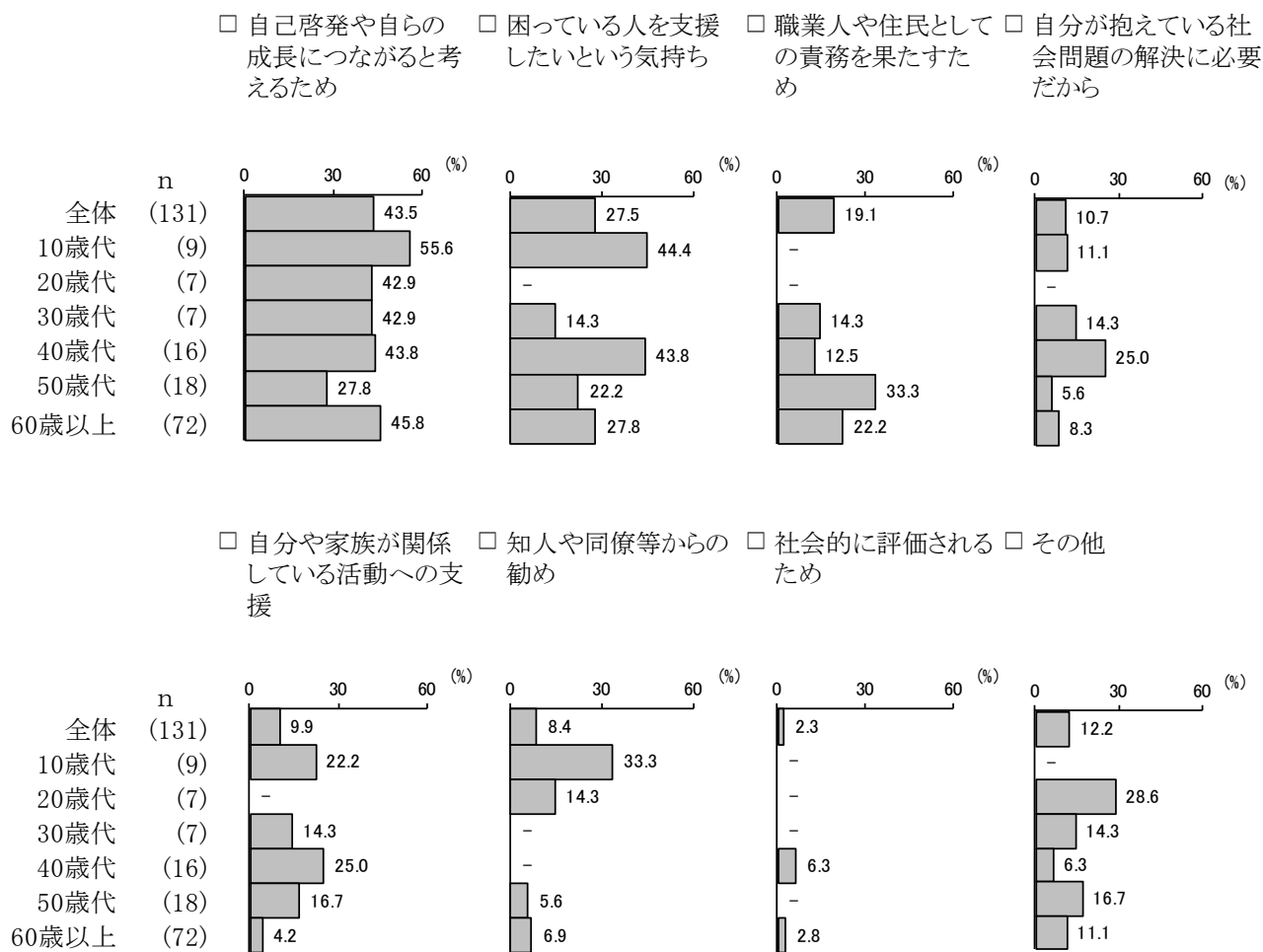
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示することとする。

【図表26：地域活動の参加の理由】 ボランティア



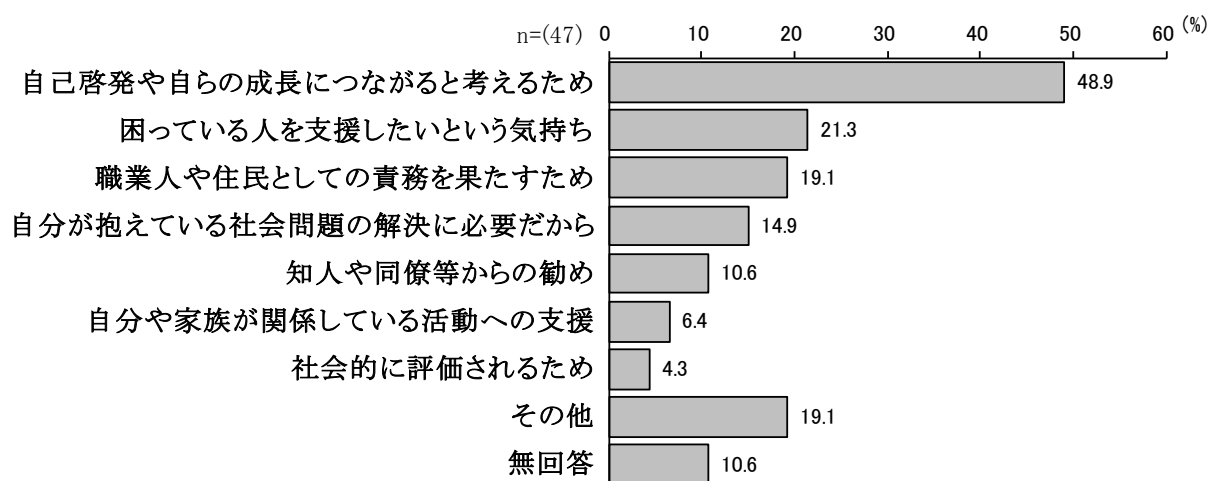
ボランティアへの参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が43.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(27.5%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.1%)の順となっている。

【図表 27：年齢別／参加の理由】ボランティア上位8項目



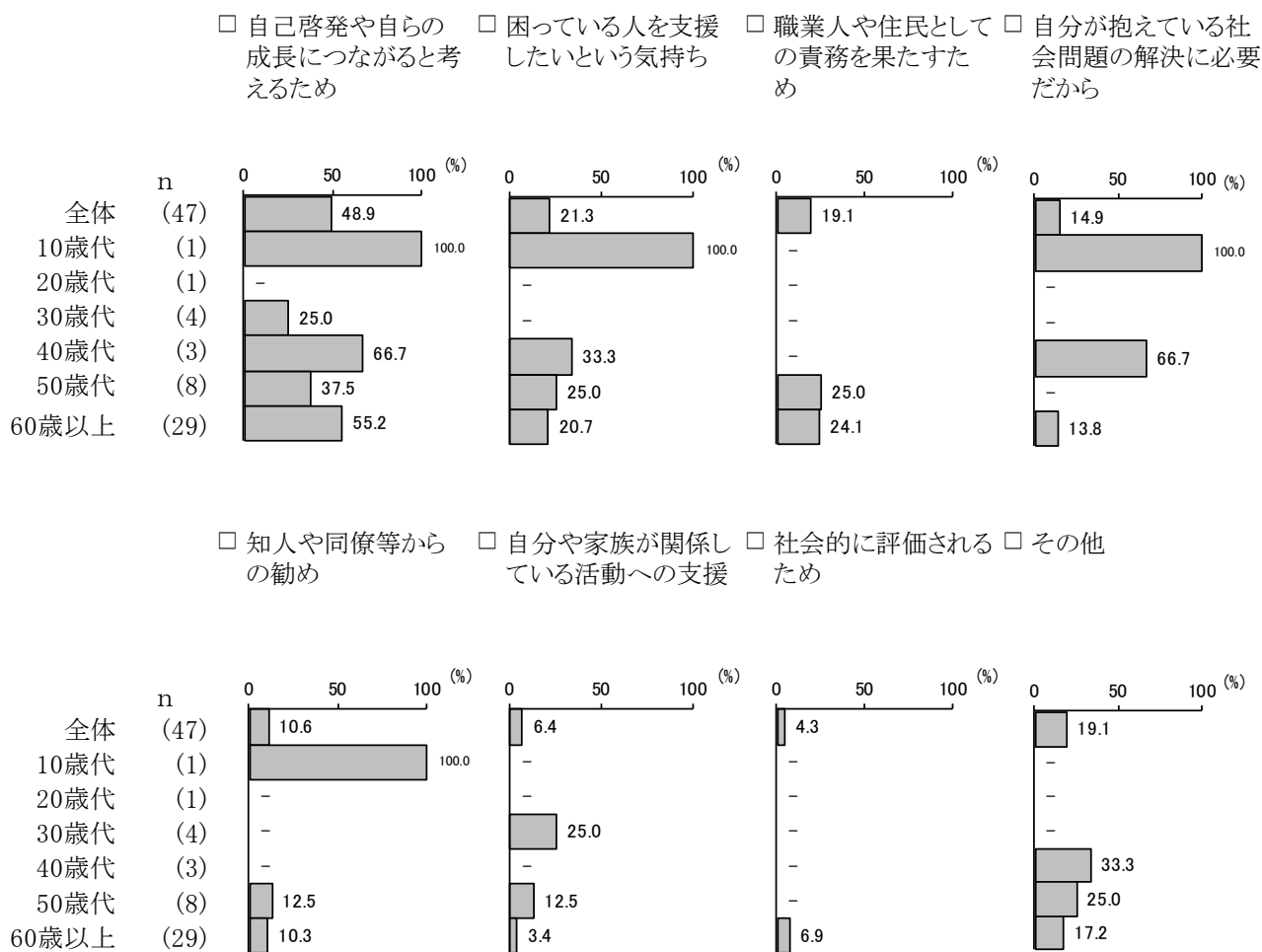
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表28：地域活動の参加の理由】 市民活動団体(NPOを含む)



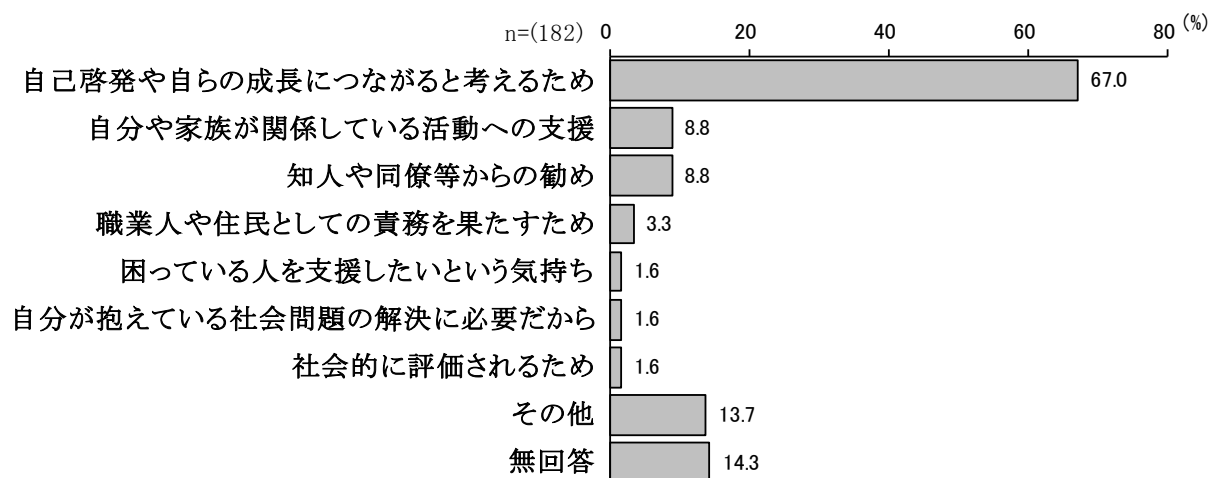
市民活動団体(NPOを含む)への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が48.9%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(21.3%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.1%)の順となっている。

【図表29：年齢別／参加の理由】市民活動団体(NPOを含む)上位8項目



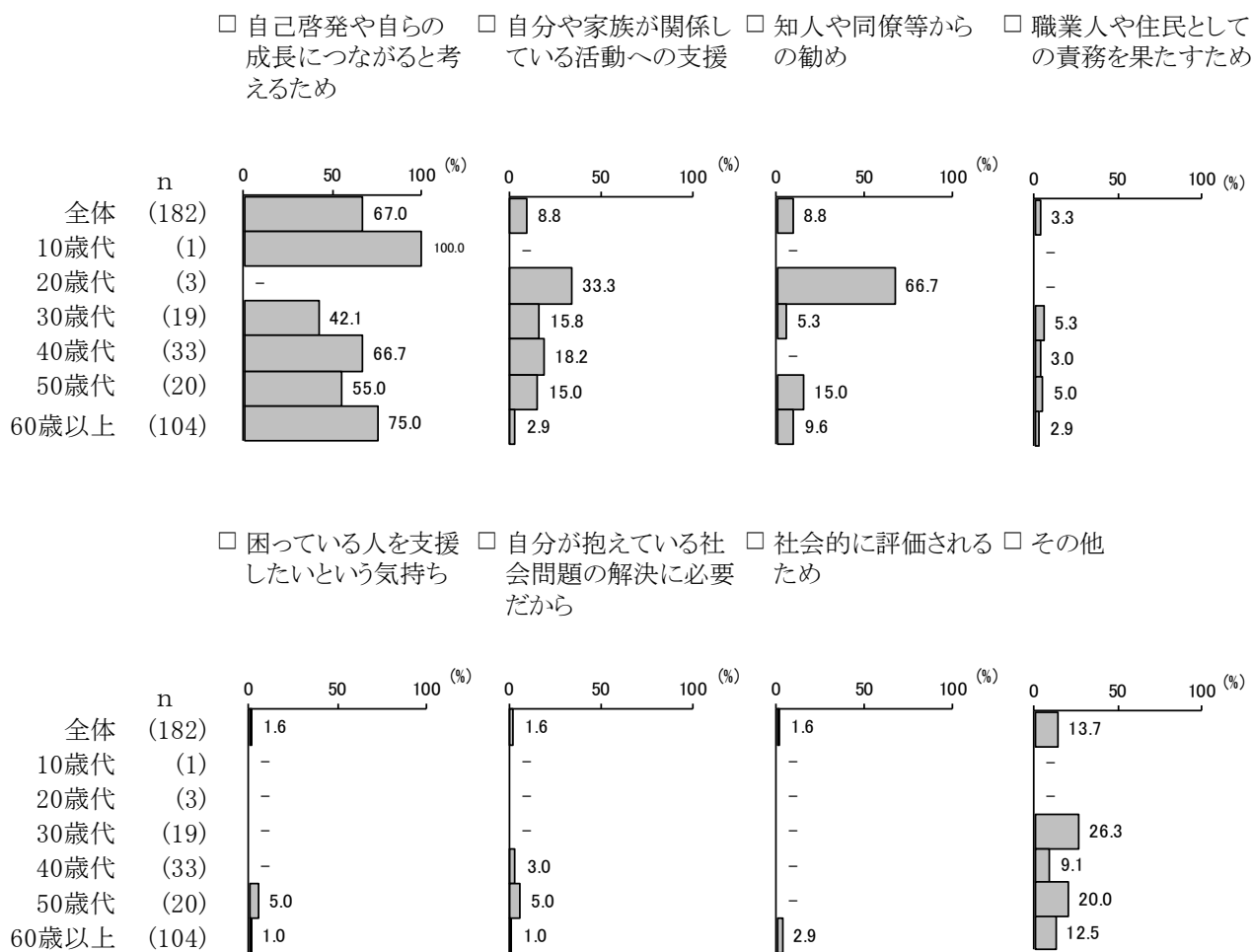
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表30：地域活動の参加の理由】 公民館などのサークルや講座



公民館などのサークルや講座への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が67.0%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」及び「知人や同僚等からの勧め」(8.8%)の順となっている。

【図表31：年齢別／参加の理由】**公民館などのサークルや講座**上位8項目



年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

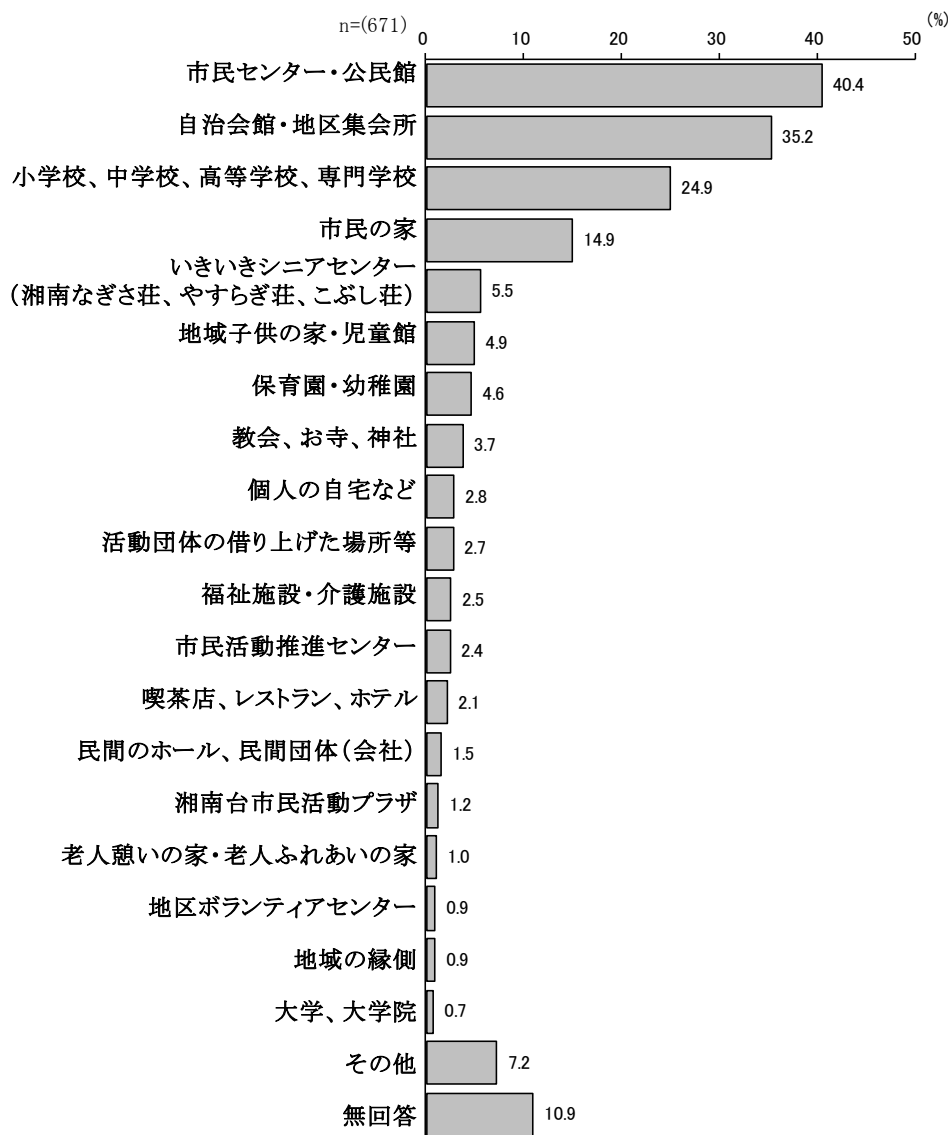
(3) 地域活動を行う場として利用している施設

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問2-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。

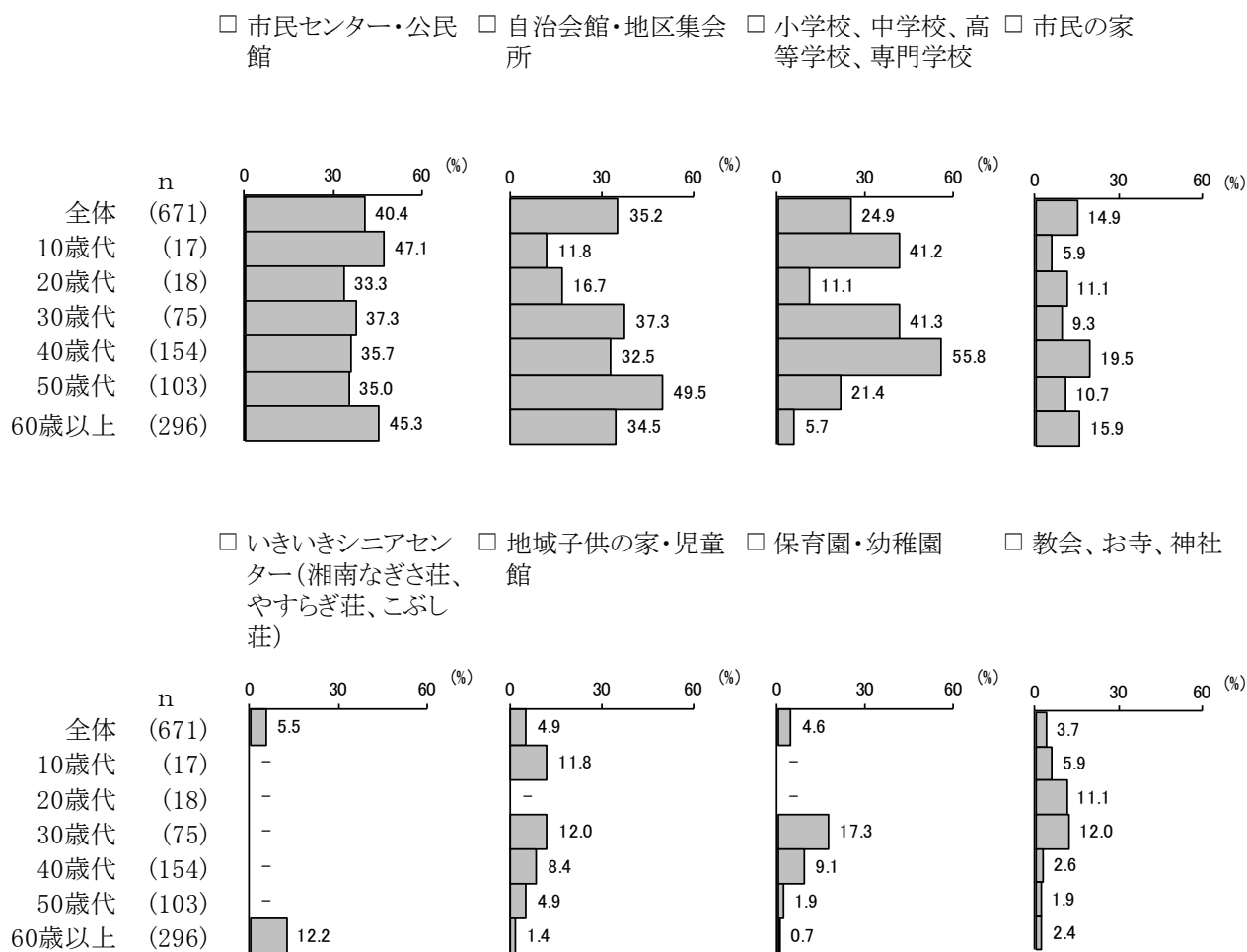
（あてはまるものすべてに○）

【図表32：地域活動を行う場として利用している施設】



地域活動を行う場として利用している施設については、「市民センター・公民館」が40.4%と最も高く、次いで、「自治会館・地区集会所」(35.2%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(24.9%)の順となっている。

【図表33：年齢別／地域活動を行う場として利用している施設】上位8項目



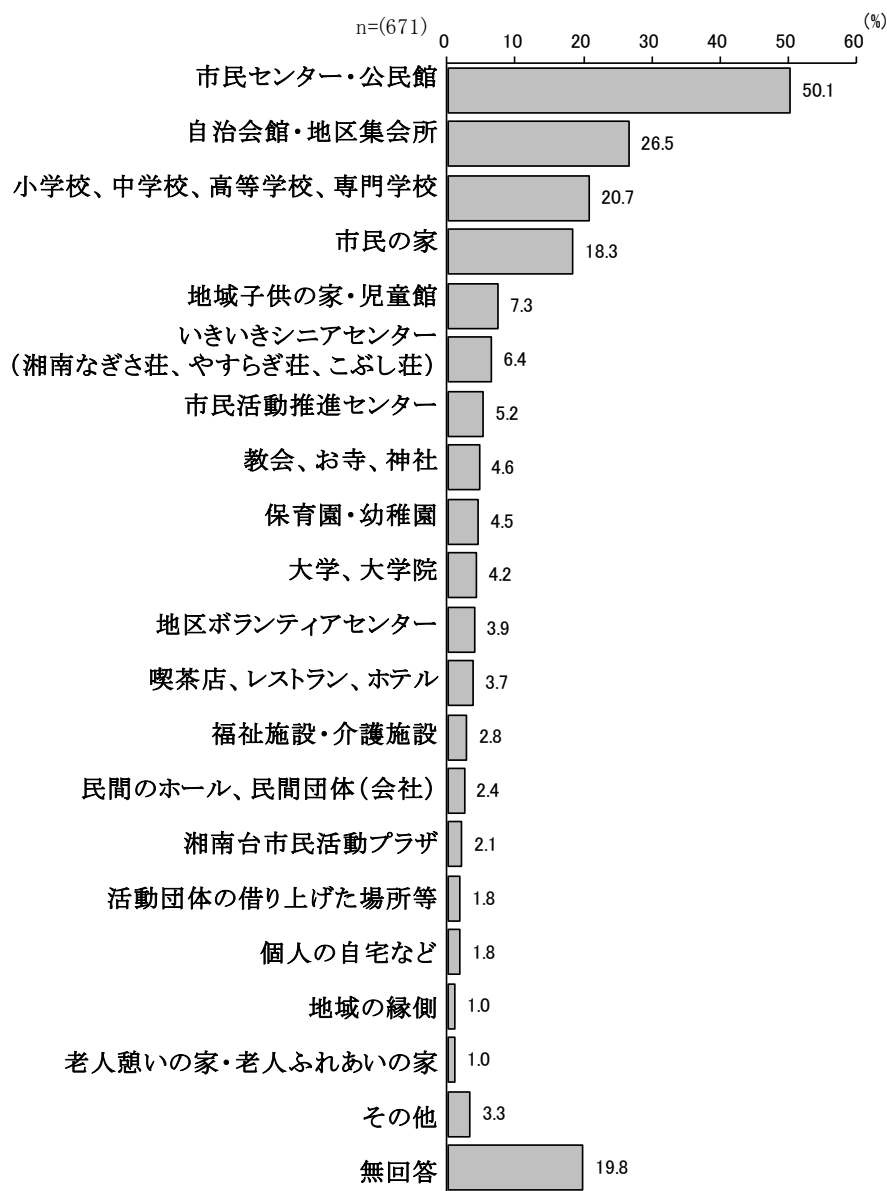
「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、60歳以上が45.3%と高くなっている。「自治会館・地区集会所」は50歳代が49.5%で最も高くなっている。「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は40歳代が55.8%で最も高くなっている。

(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

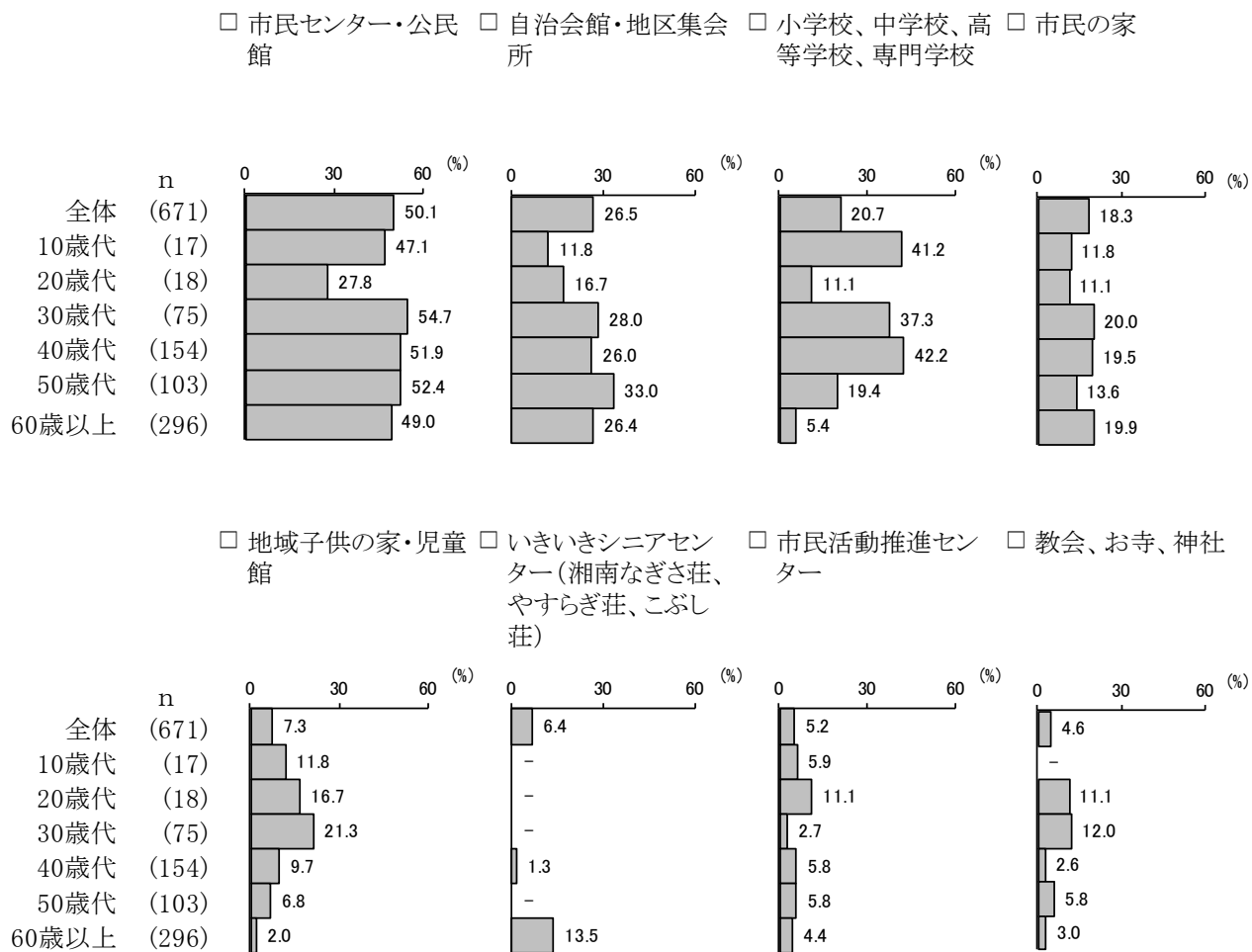
問2-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表34：地域活動を行う場として今後利用したい施設】



地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」が50.1%と最も高く、次いで、「自治会館・地区集会所」(26.5%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(20.7%)の順となっている。

【図表35：年齢別／地域活動を行う場として今後利用したい施設】上位8項目

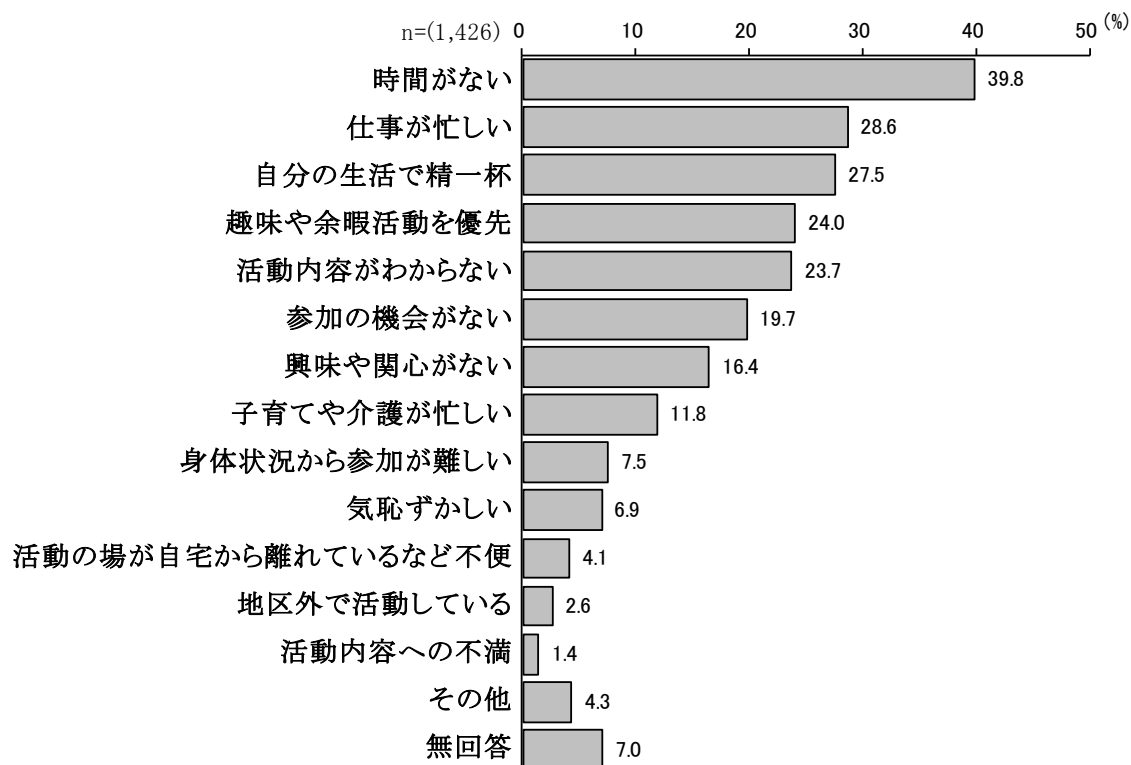


「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、30歳代（54.7%）、40歳代（51.9%）、50歳代（52.4%）と5割を超えて高くなっている。「自治会館・地区集会所」は50歳代が33.0%と最も高くなっている。「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は30歳代（37.3%）と40歳代（42.2%）が3割以上となっている。

(5) 地域活動に参加することに妨げとなること

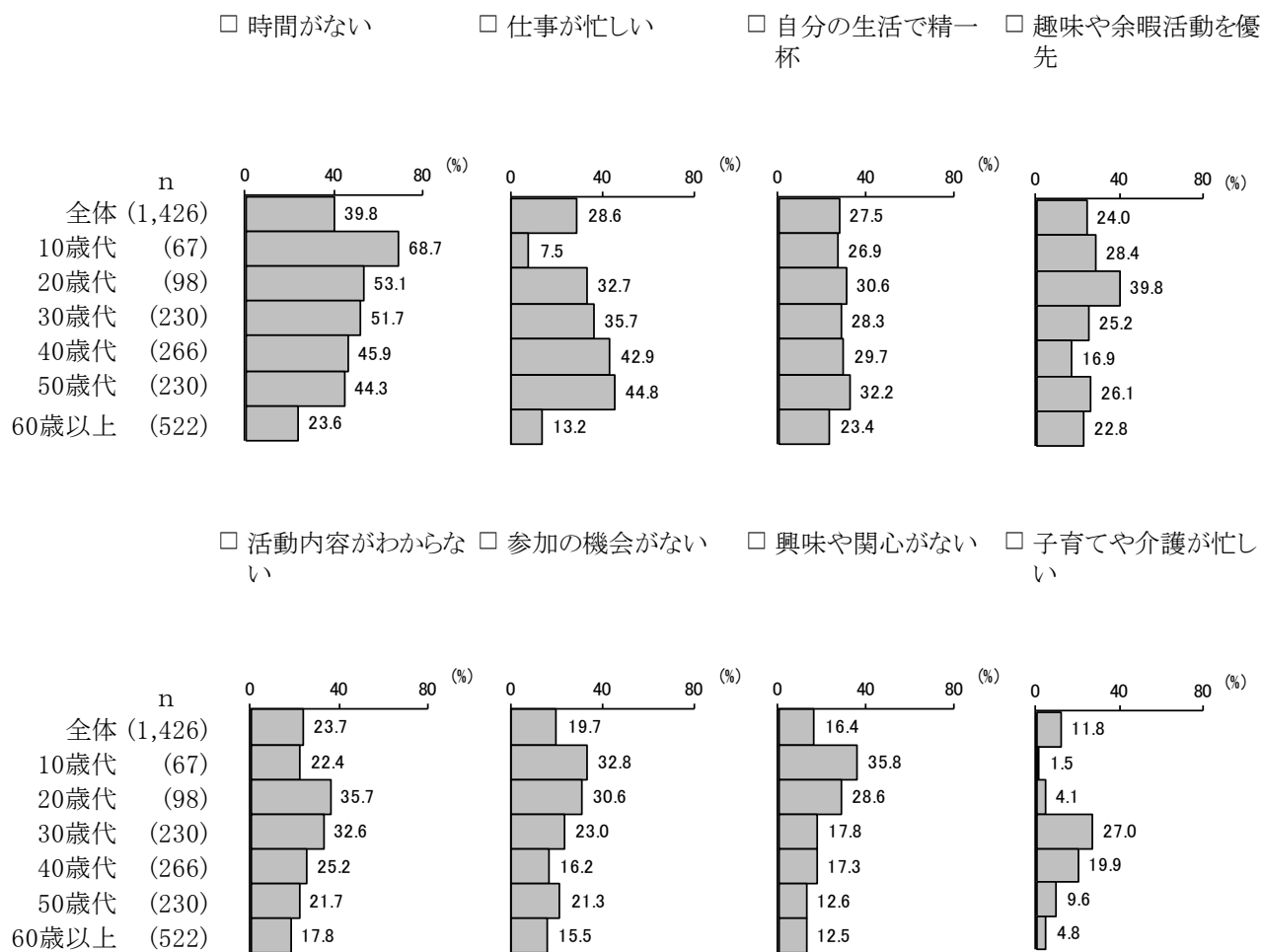
問2-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表36：地域活動に参加することに妨げとなること】



地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が39.8%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(28.6%)、「自分の生活で精一杯」(27.5%)の順となっている。

【図表37：年齢別／地域活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



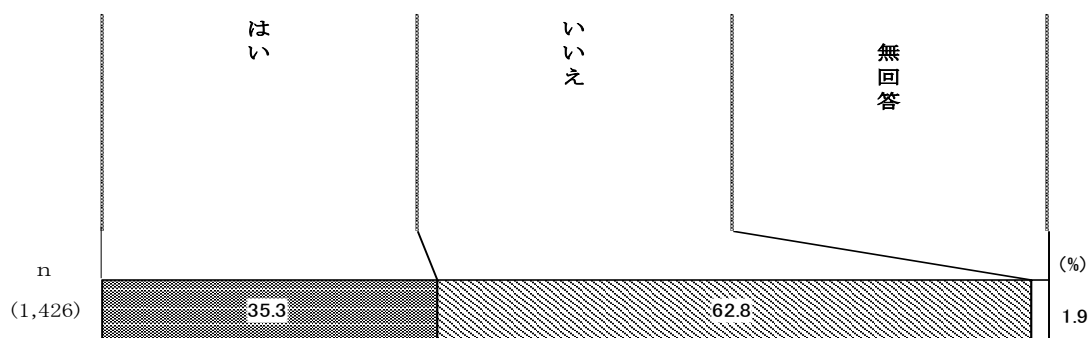
「時間がない」を年齢別で見ると、10歳代が68.7%と最も高く、年代が上がるにつれ低くなっている。「仕事が忙しい」は年代が上がるにつれ高くなっており、50歳代で44.8%と最も高くなっている。「自分の生活で精一杯」はすべての年代で20%を超えており、あまり大きな差はみられない。

3. 市民活動について

(1) 市民活動への参加意向

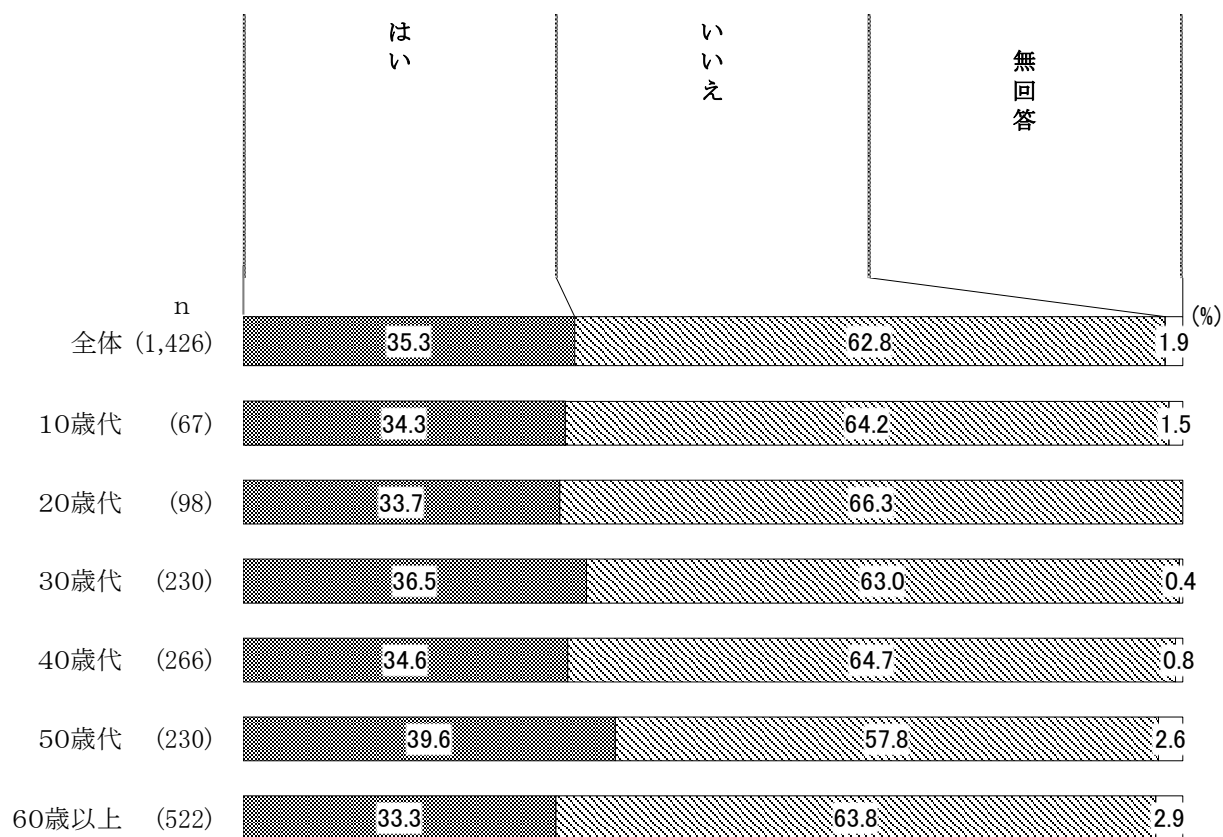
問3-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。
（一つに〇）

【図表38：市民活動への参加意向】



市民活動への参加意向については、「はい」が35.3%、「いいえ」が62.8%となっている。

【図表39：年齢別／市民活動への参加意向】



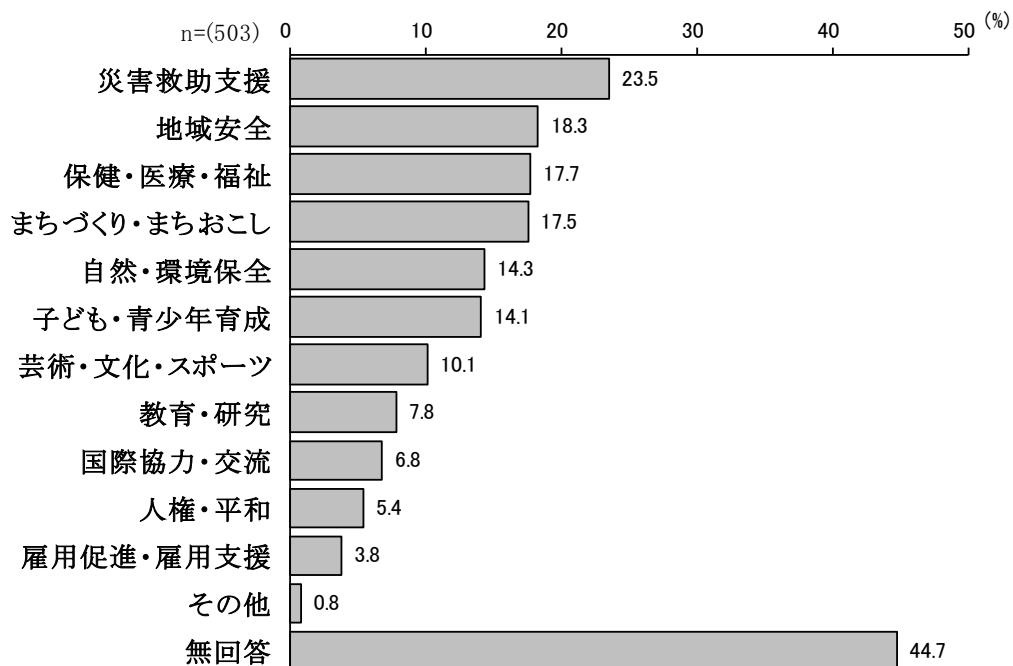
「はい」を年齢別で見ると、すべての年代で30%を超えており、あまり大きな差はみられない。

(2) 参加したい市民活動の分野

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

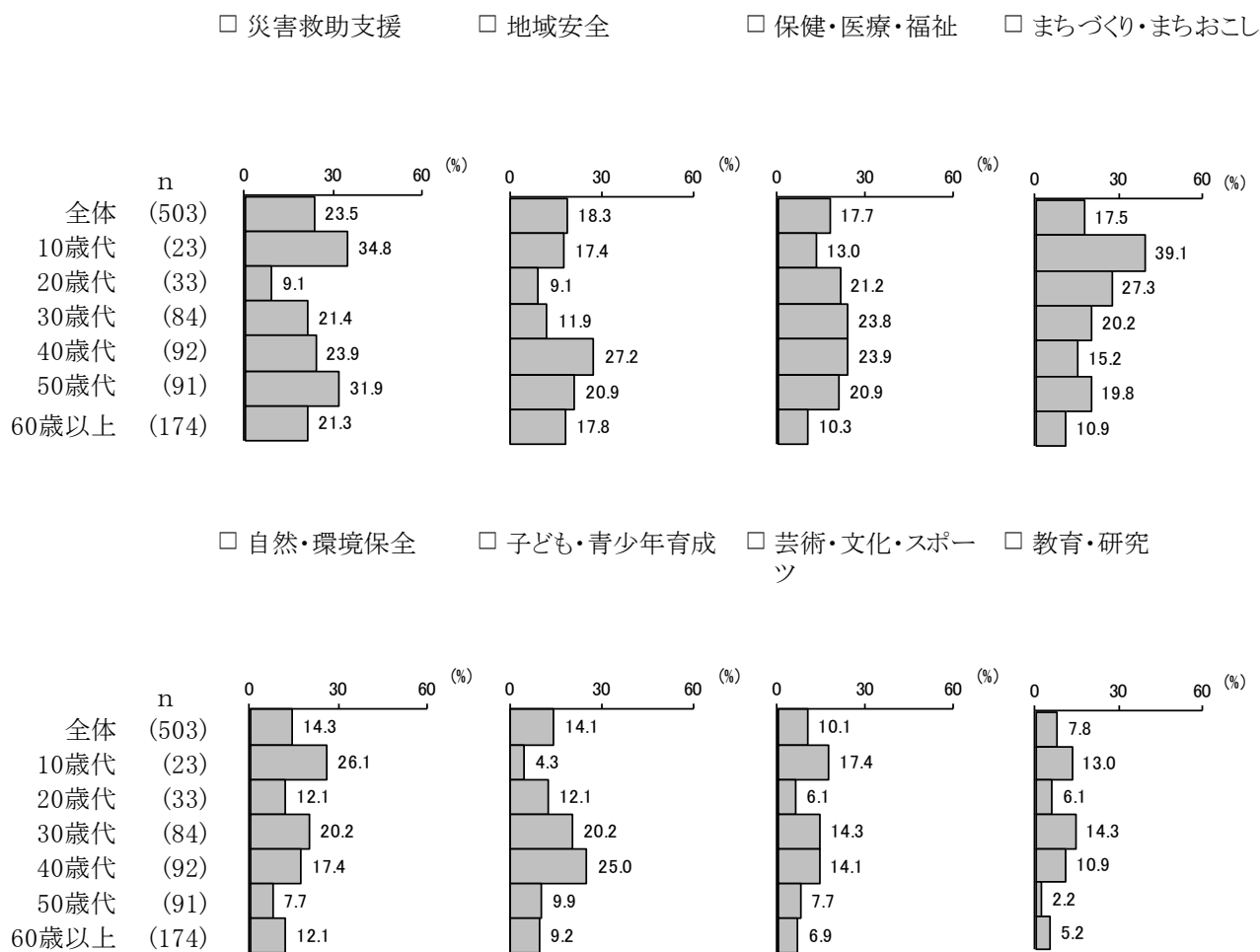
問3-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

【図表40：参加したい市民活動の分野 ①震災関連】



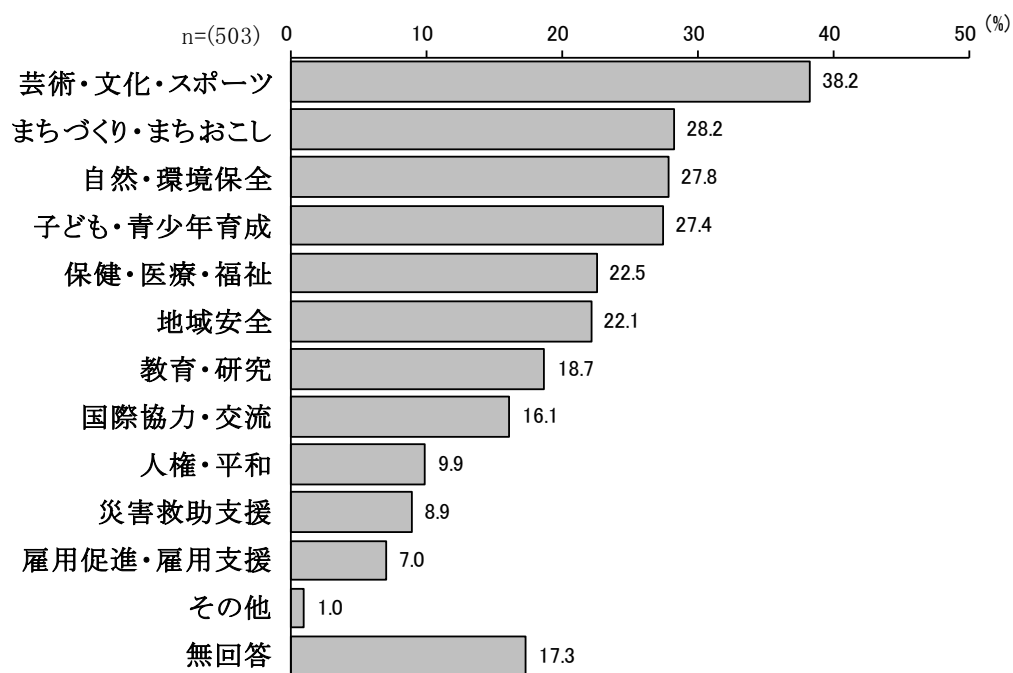
参加したい震災関連活動については、「災害救助支援」が23.5%と最も高く、次いで、「地域安全」(18.3%)、「保健・医療・福祉」(17.7%)の順となっている。

【図表41：年齢別／参加したい市民活動の分野 ①震災関連】上位8項目



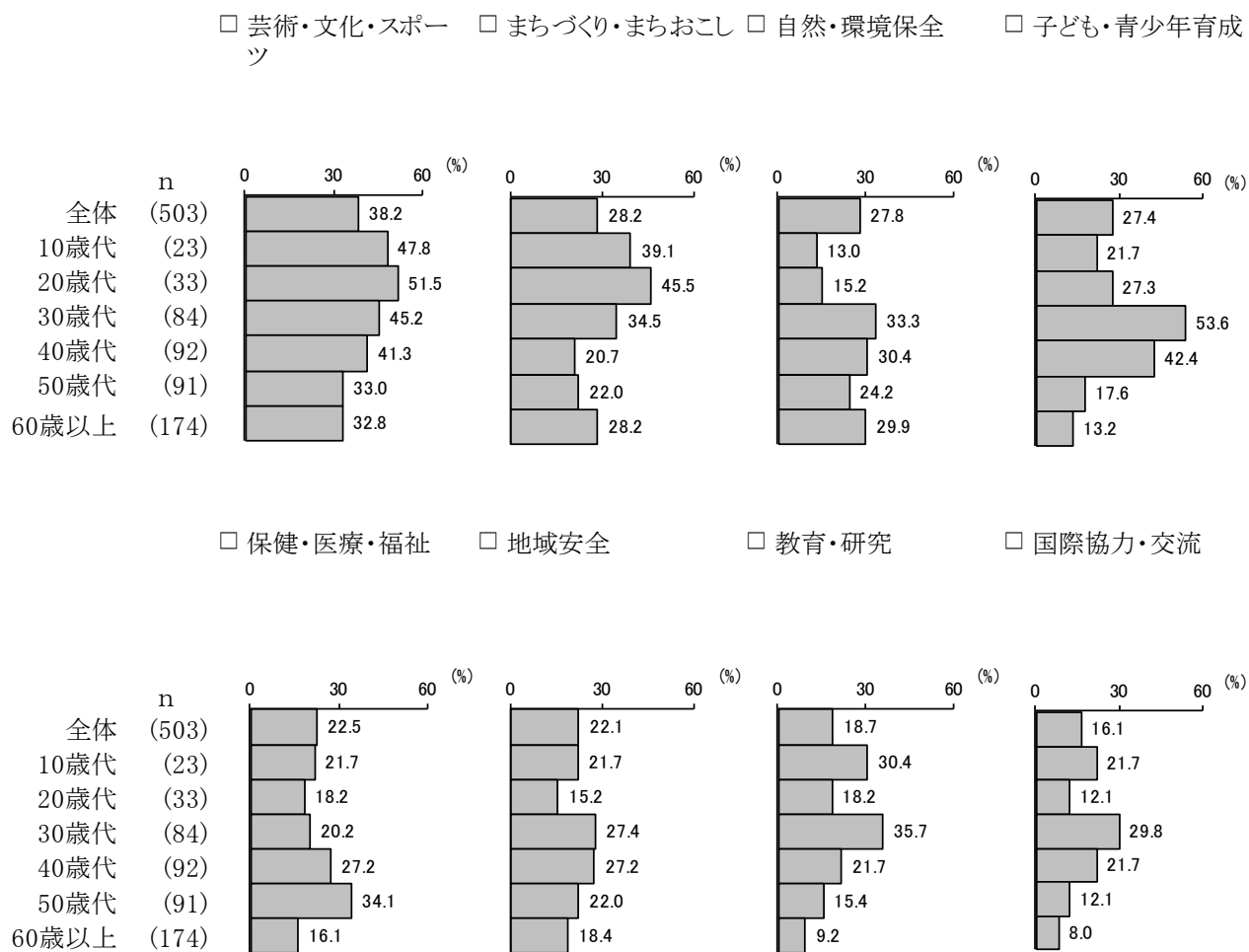
「災害救助支援」を年齢別で見ると、50歳代が31.9%と最も高くなっている。「地域安全」は40歳代が27.2%と最も高くなっている。「保健・医療・福祉」は20～50歳代で20%を超えて高くなっている。

【図表42：参加したい市民活動の分野 ②震災関連を除く】



震災関連を除く市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」が38.2%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(28.2%)、「自然・環境保全」(27.8%)の順となっている。

【図表43：年齢別／参加したい市民活動の分野 ②震災関連を除く】上位8項目



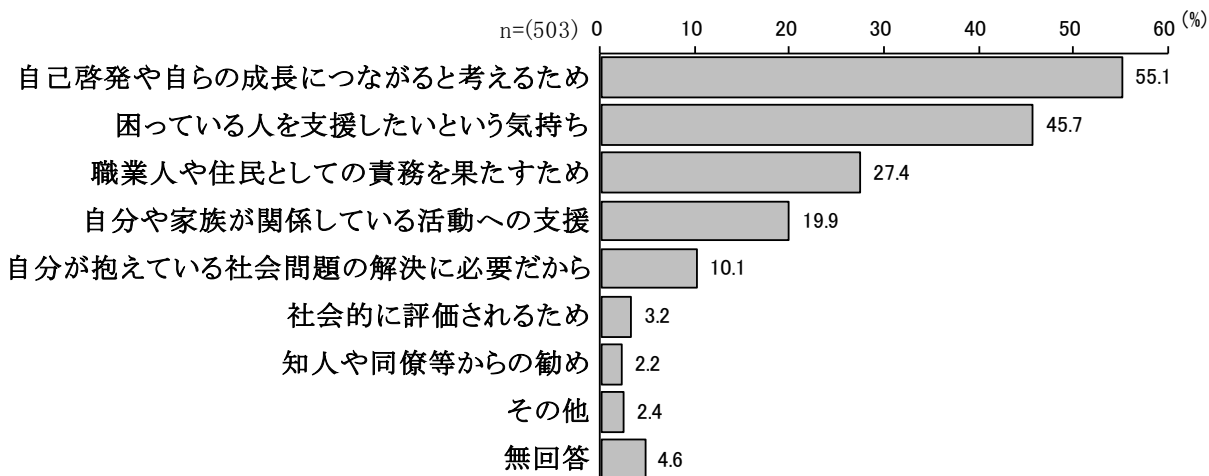
「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代が51.5%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が45.5%と最も高くなっている。「自然・環境保全」は30歳代が33.3%と最も高くなっており、次いで40歳代（30.4%）と60歳以上（29.9%）が約3割と高くなっている。

(3) 市民活動に参加する理由

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

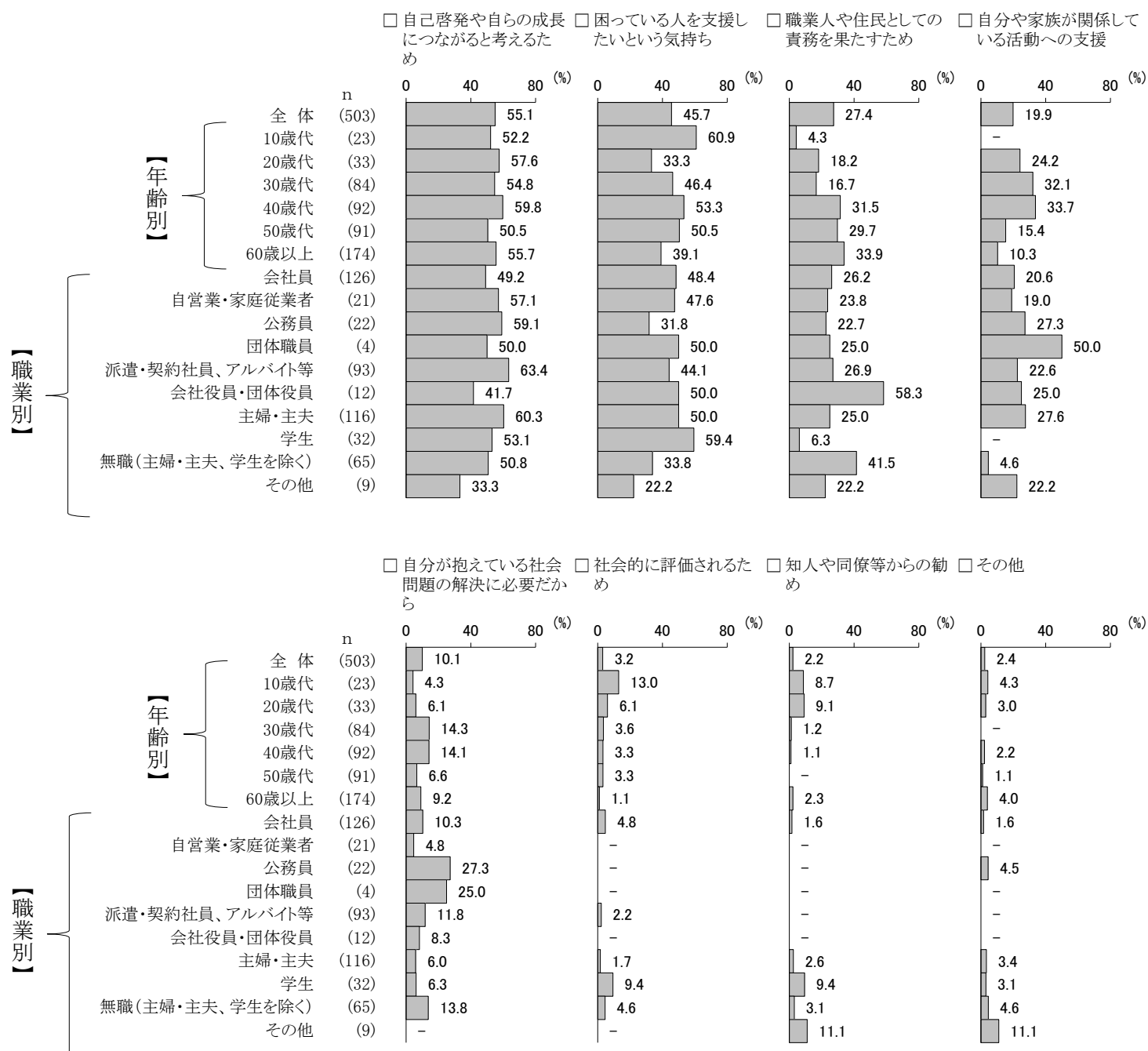
問3-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表44：市民活動に参加する理由】



市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が55.1%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(45.7%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(27.4%)の順となっている。

【図表45：年齢別・職業別／市民活動に参加する理由】上位6項目



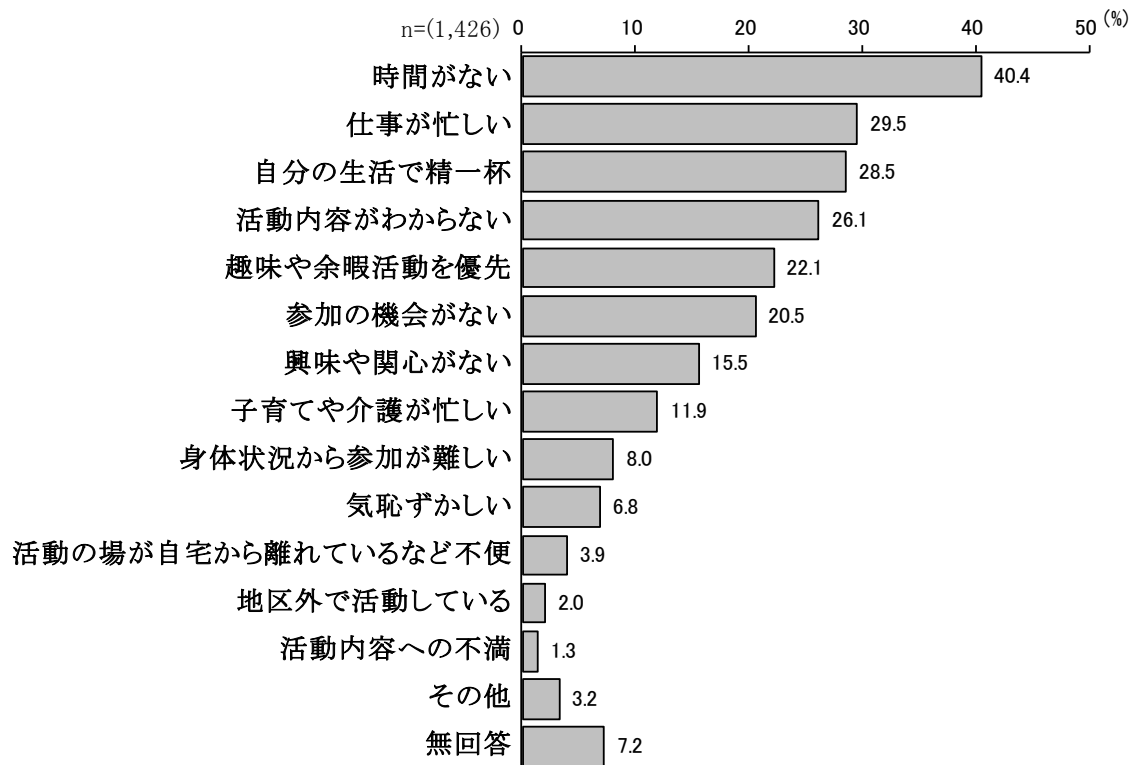
「自己啓発や自らの成長につながるため」を年齢別で見ると、すべての年代で50%を超えており、年齢別であまり大きな差はみられない。「困っている人を支援したいという気持ち」は40～50歳代が50%を超えて高くなっている。

「自己啓発や自らの成長につながるため」を職業別で見ると、「派遣・契約社員、アルバイト等」「主婦・主夫」が60%を超えて高くなっている。

(4) 市民活動に参加することに妨げとなること

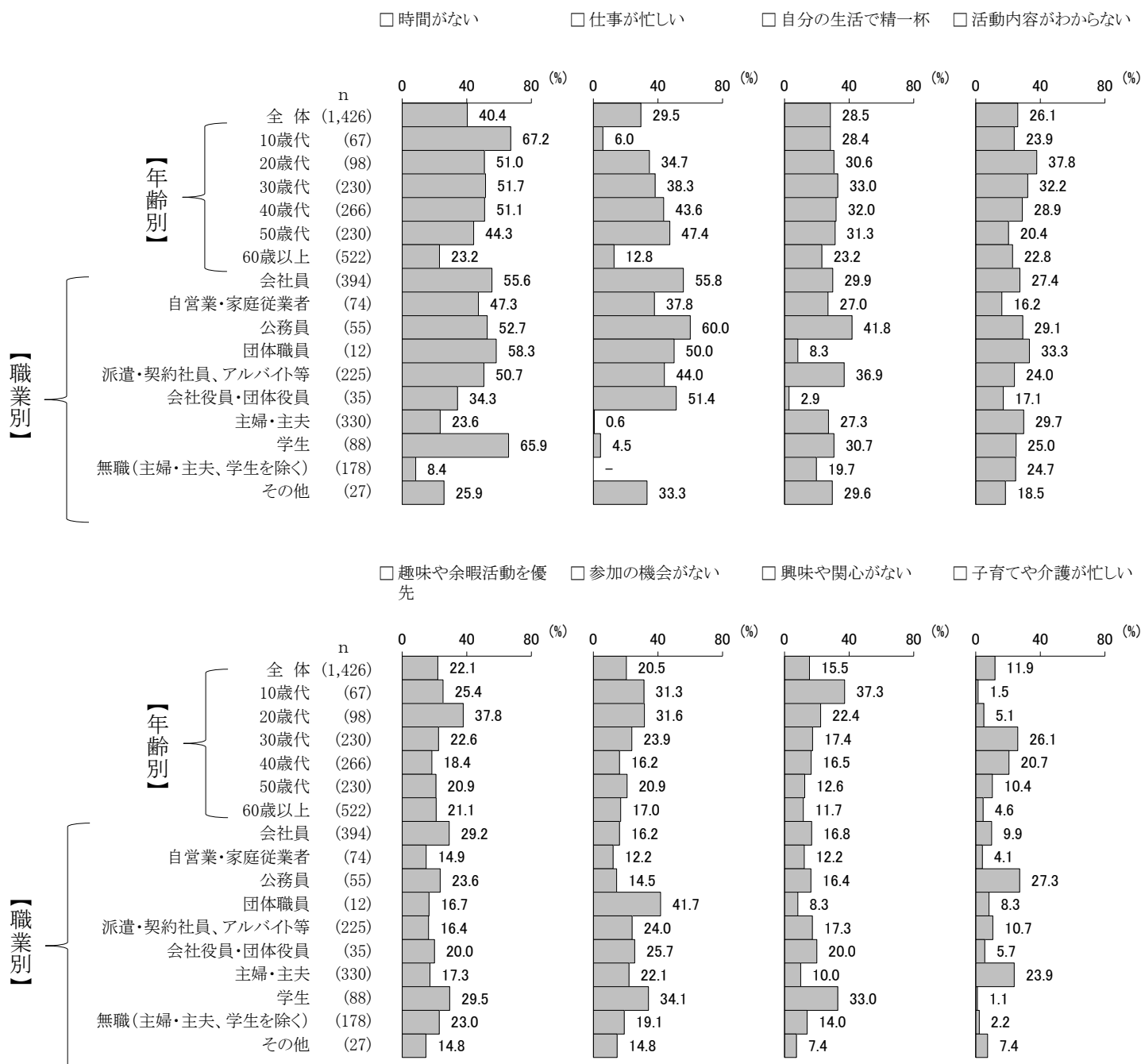
問3-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表46：市民活動に参加することに妨げとなること】



市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が40.4%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(29.5%)、「自分の生活で精一杯」(28.5%)の順となっている。

【図表47：年齢別・職業別／市民活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



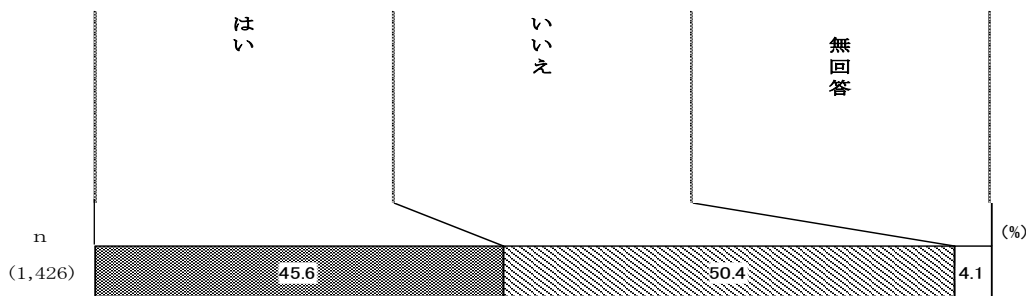
「時間がない」を年齢別で見ると、10歳代が67.2%と最も高くなっている。次いで、20～40歳代が50%を超えている。「仕事が忙しい」はおおむね年代が上がるにつれ高くなり、50歳代が47.4%と最も高くなっている。「自分の生活で精一杯」は60歳以上を除いたすべての年代で約30%となっており、年齢別であまり大きな差はみられない。

「時間がない」を職業別で見ると、「学生」が65.9%と最も高くなっている。「仕事が忙しい」は「公務員」が60.0%と最も高くなっている。

(5) 市民活動団体に期待することの有無

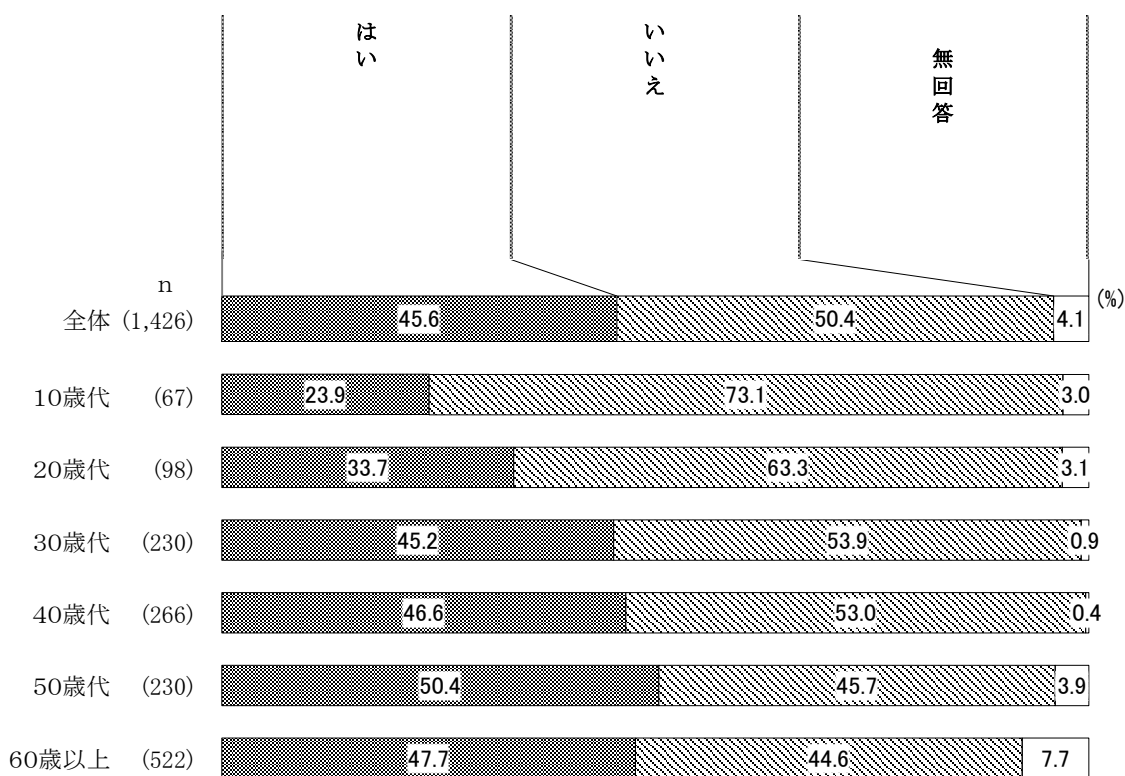
問3-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに○)

【図表48：市民活動団体に期待することの有無】



市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が45.6%、「いいえ」が50.4%となっている。

【図表49：年齢別／市民活動団体に期待することの有無】



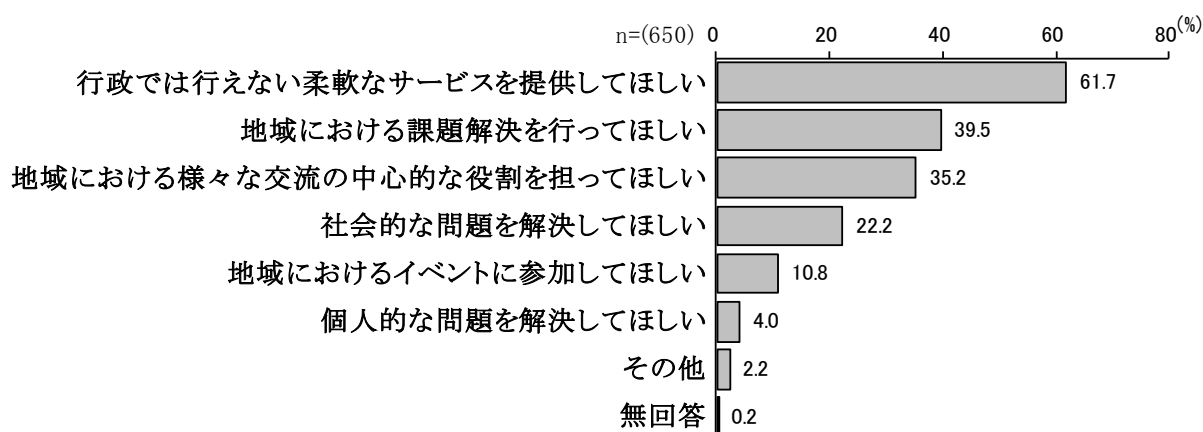
年齢別でみると、「はい」は50歳代が50.4%と最も高くなっており、次いで、60歳以上（47.7%）、40歳代（46.6%）、30歳代（45.2%）と高くなっている。

(6) 市民活動団体に期待することの内容

【問3-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

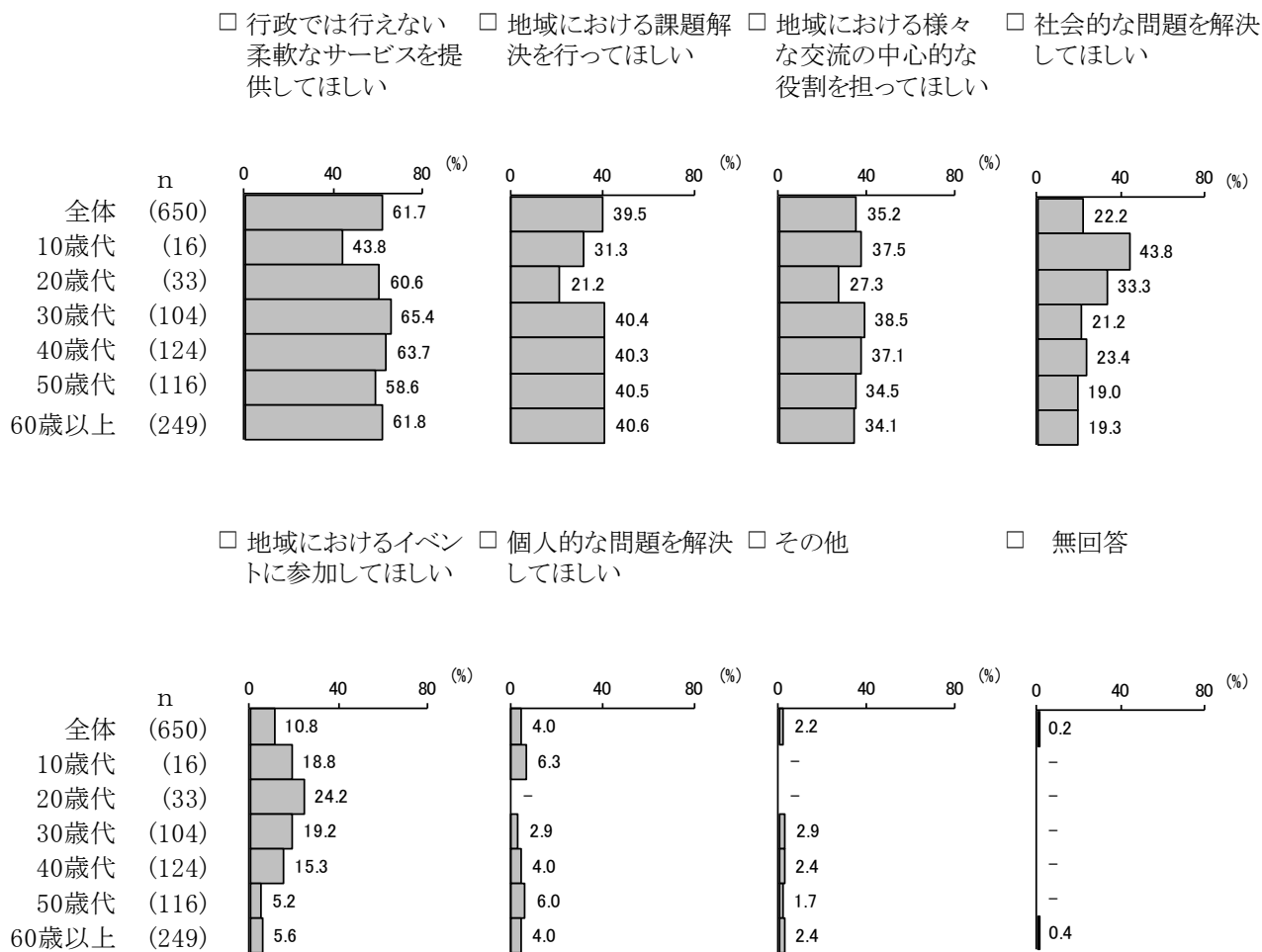
問3-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表50：市民活動団体に期待することの内容】



市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が61.7%と最も高く、次いで、「地域における課題解決を行ってほしい」(39.5%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(35.2%)の順となっている。

【図表51：年齢別／市民活動団体に期待することの内容】



「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」を年齢別で見ると、20歳代～60歳以上が約60%となっており、年齢別であまり大きな差はみられない。「地域における課題解決を行ってほしい」は30歳代～60歳以上が約40%と高くなっている。「地域における様々な交流の中心となる役割を担ってほしい」も同様の傾向がみられ、30歳代～60歳以上が30%を超えて高くなっている。

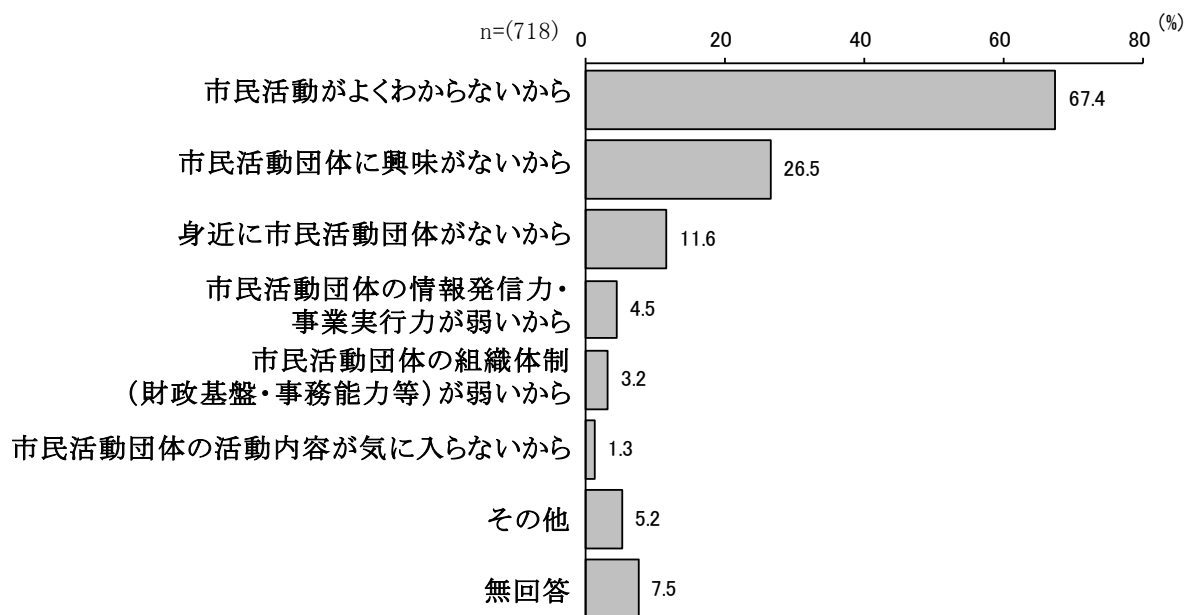
(7) 市民活動団体に期待することがない理由

【問3-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】

問3-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。

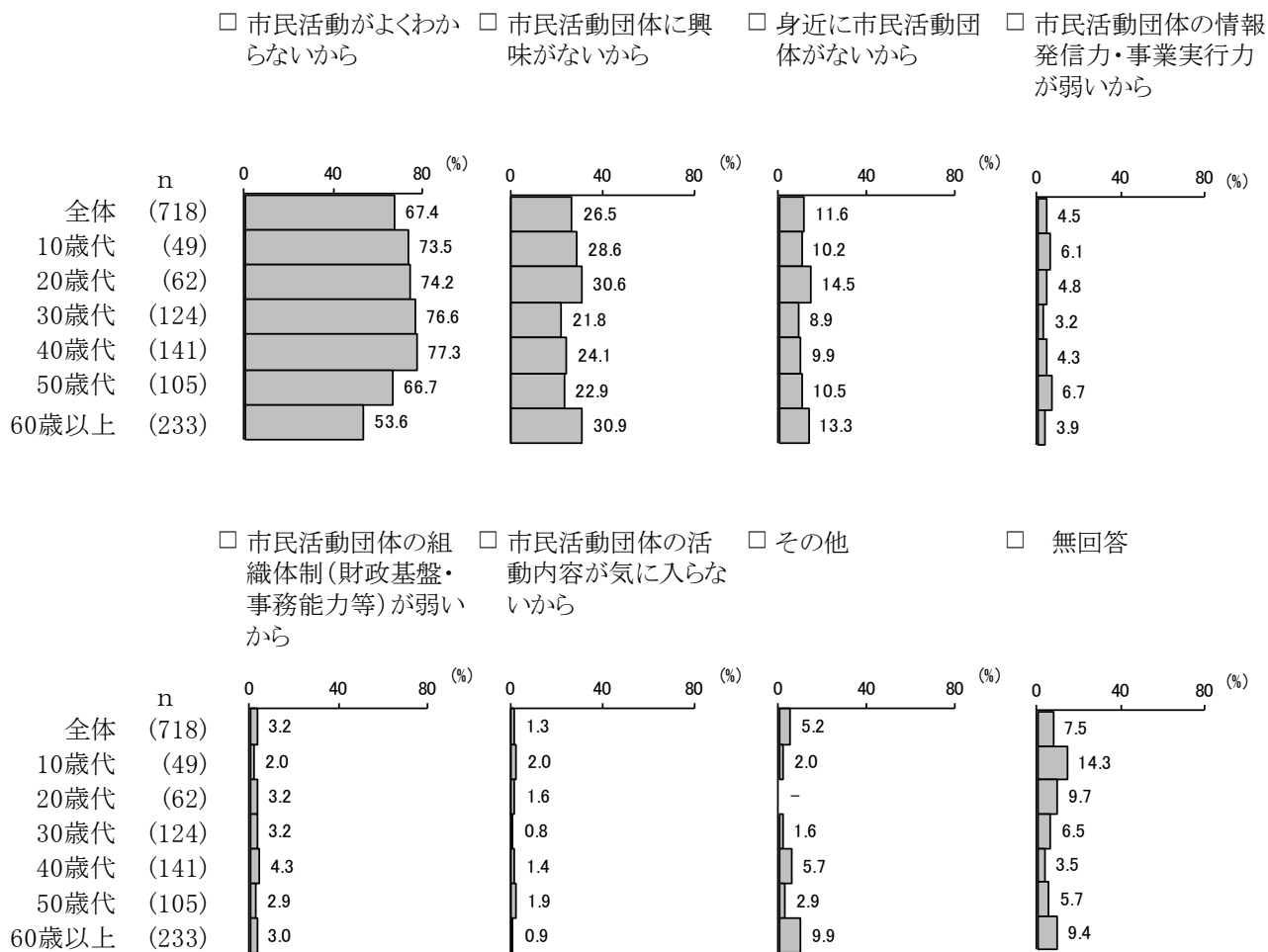
(あてはまるもの全てに○)

【図表52：市民活動団体に期待することがない理由】



市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が67.4%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(26.5%)、「身近に市民活動団体がないから」(11.6%)の順となっている。

【図表53：年齢別／市民活動団体に期待することがない理由】

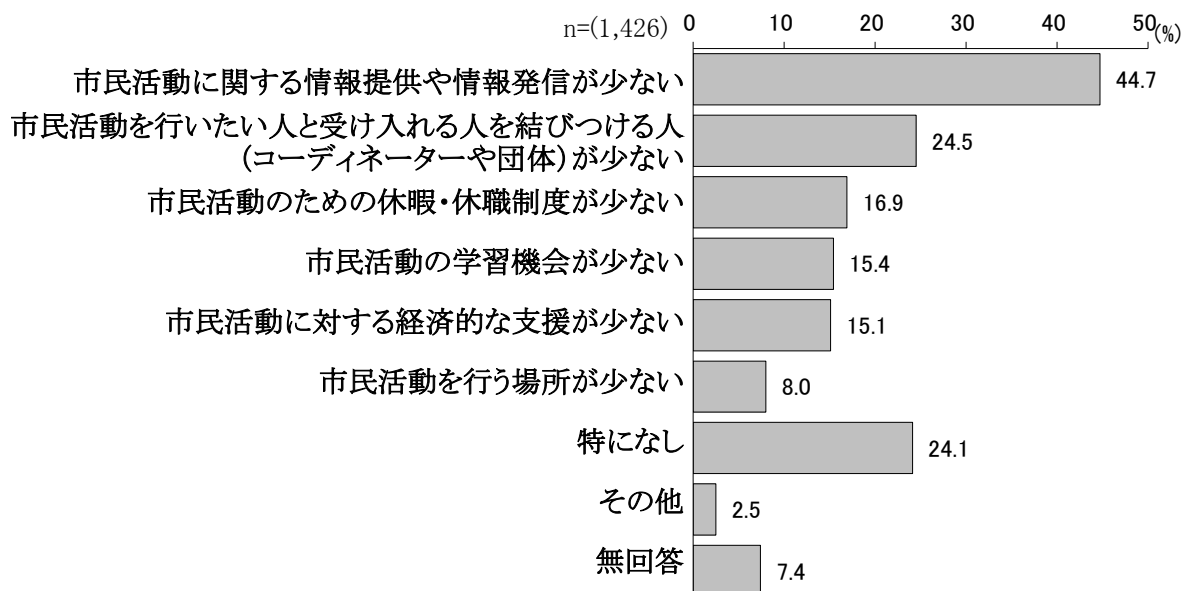


「市民活動がよくわからないから」を年齢別で見ると、10～40歳代が70%を超えて高くなっている。「市民活動団体に興味がないから」は20歳代と60歳以上が30%を超えて高くなっている。

(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになること

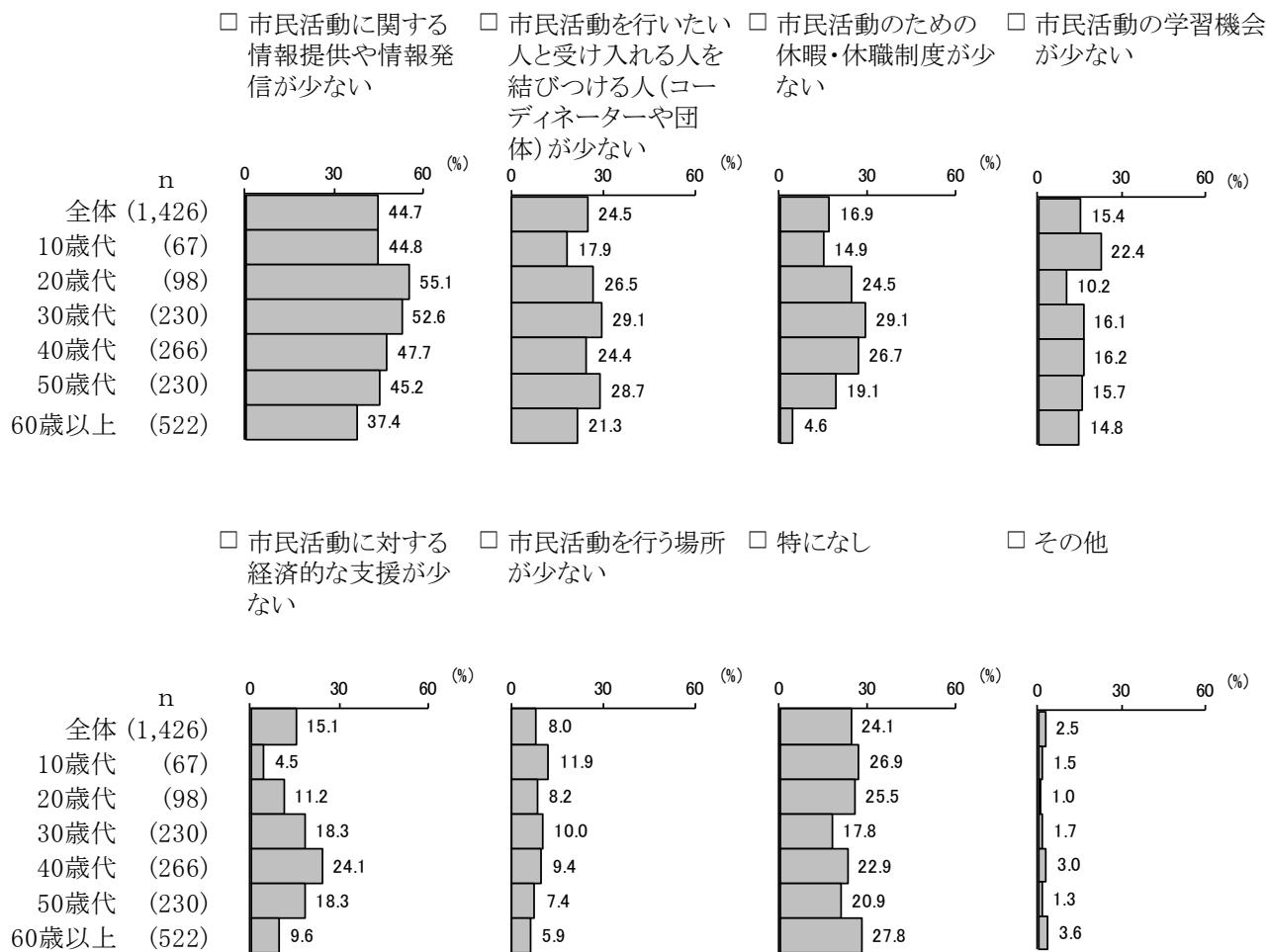
問3-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表54：市民活動団体が活動するときに妨げになること】



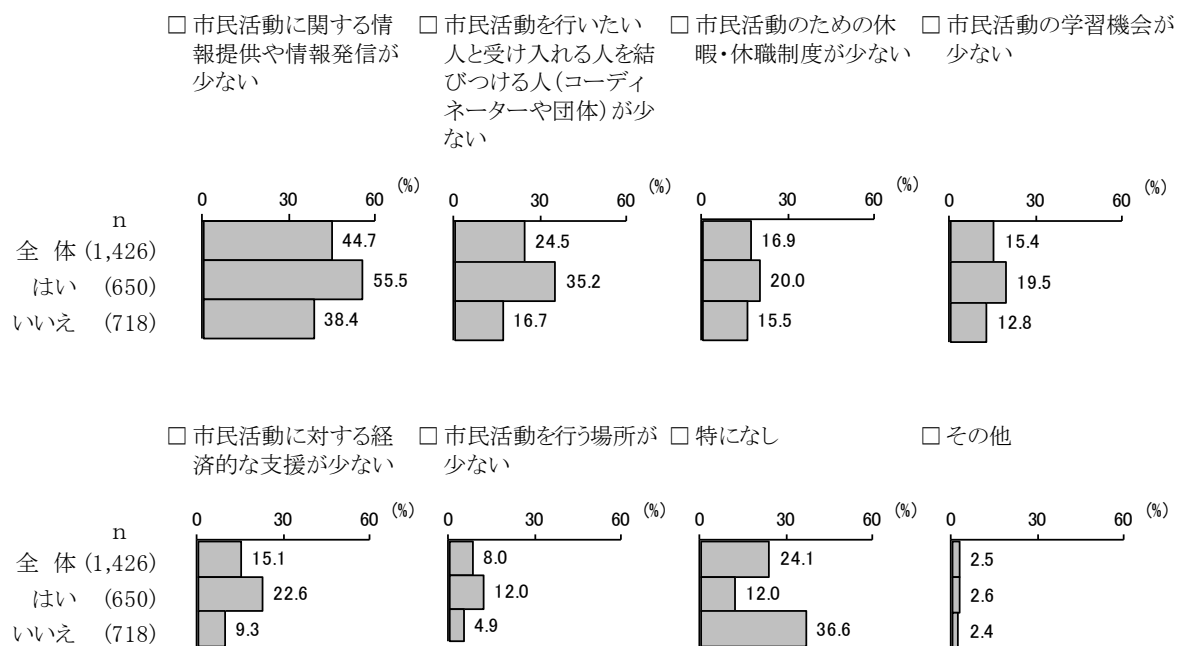
市民活動団体が活動する時に妨げになることについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が44.7%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」(24.5%)、「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」(16.9%)の順となっている。

【図表55：年齢別／市民活動団体が活動するときに妨げになること】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を年齢別で見ると、20歳代が55.1%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は30歳代(29.1%)と50歳代(28.7%)が約3割と高くなっている。「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」は20～40歳代が2割を超えて高くなっている。

【図表56：市民活動に期待することの有無別／市民活動団体が活動するときに妨げになること】上位8項目

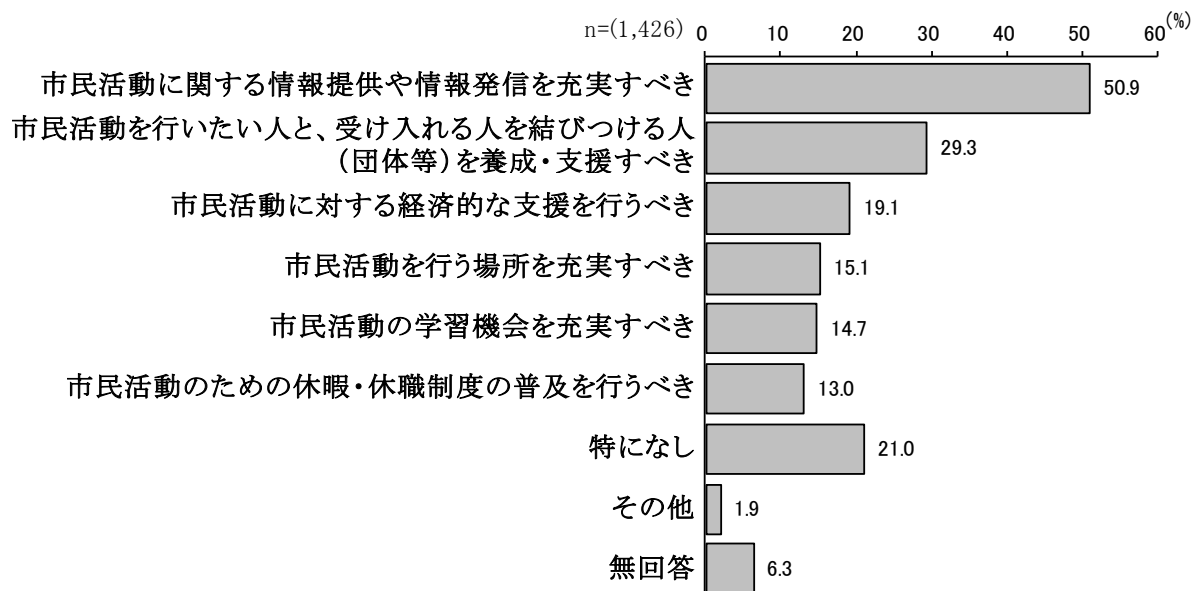


「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を市民活動に期待することの有無別にみると、「はい」55.5%、「いいえ」38.4%で「はい」の方が「いいえ」よりも17.1ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は「はい」35.2%、「いいえ」16.7%で「はい」の方が「いいえ」よりも18.5ポイント高くなっている。

(9) 市民活動について市に望むこと

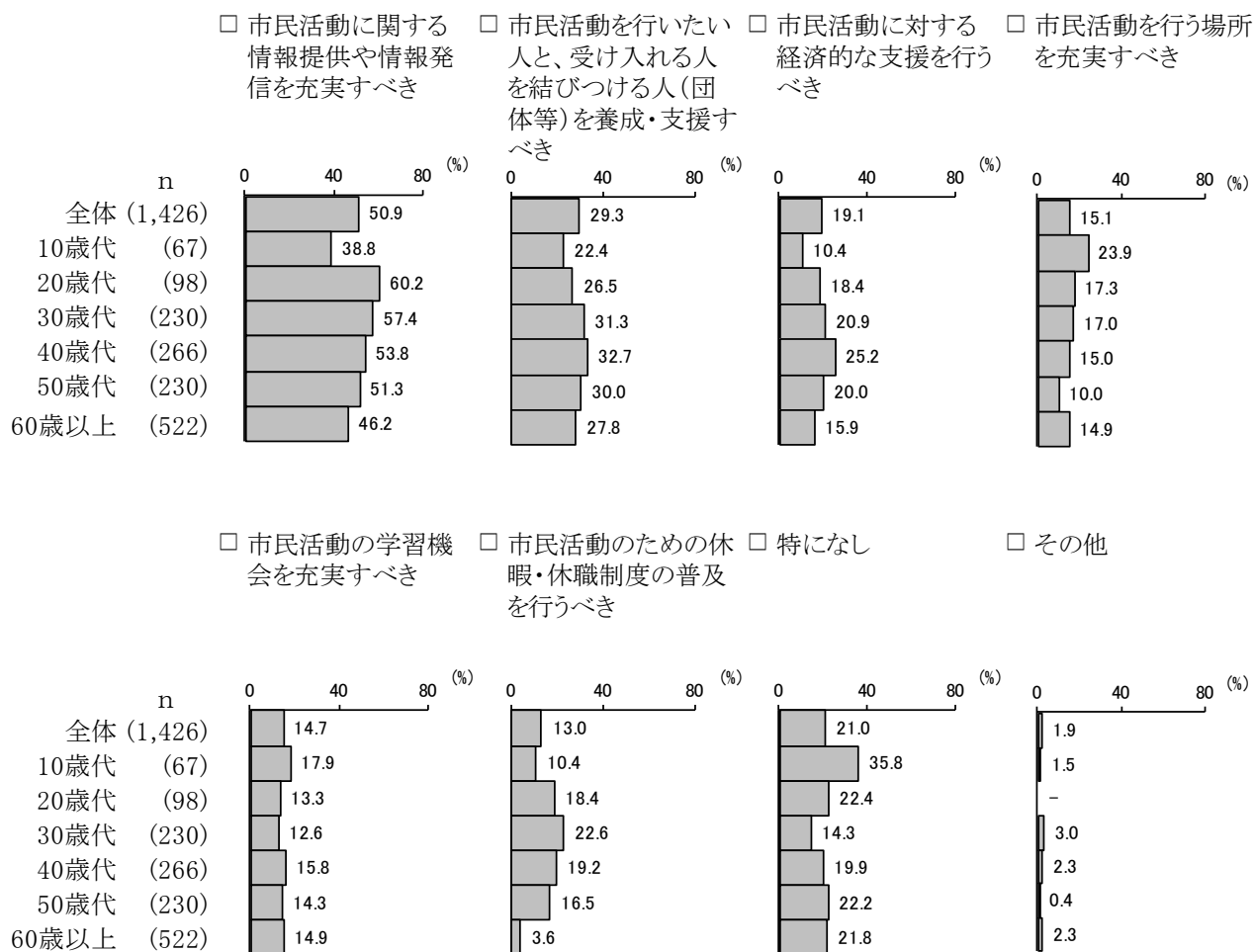
問3-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表57：市民活動について市に望むこと】



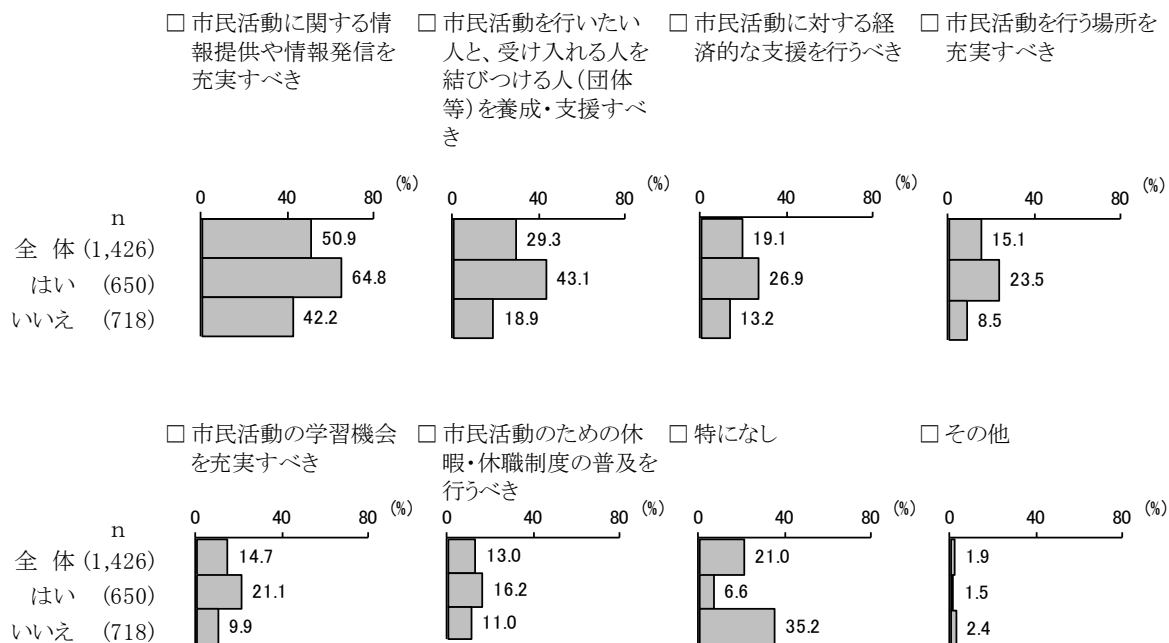
市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が50.9%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(29.3%)、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」(19.1%)の順となっている。

【図表58：年齢別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、20歳代が60.2%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は30～50歳代が30%を超えている。「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」も同様の傾向がみられる。

【図表59：市民活動に期待することの有無別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を市民活動に期待することの有無別にみると、「はい」64.8%、「いいえ」42.2%で「はい」の方が「いいえ」よりも22.6ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は「はい」43.1%、「いいえ」18.9%で「はい」の方が「いいえ」よりも24.2ポイント高くなっている。